

第 5 回 独身者（40 代～60 代前半）の老後生活設計ニーズに関する調査：調査結果の概要（全体および男女別等）

平河 茉璃絵

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構 研究員

【 記 事 情 報 】

掲載誌：年金研究 No.15 pp. 119-165 ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2021 年 3 月 19 日

掲載ホームページ：<https://www.nensoken.or.jp/publication/nenkinkenkyu/>

DOI：http://doi.org/10.20739/nenkinkenkyu.15.0_119

要旨

2020 年度に実施した第 5 回調査に関する主な調査結果は以下のとおりである。まず、40～64 歳層の全体および男女別の結果を説明し、次いで、第 5 回調査で新たに調査対象になった 60～64 歳層のみを抜きだして整理した主要結果（60 歳前後で変わったこと）を述べる。

(1) 仕事について

男女ともに現在の従業上の地位は正社員の割合が最も高い。また、男性は専門職が多い一方、女性は事務的な仕事が圧倒的に多い。男女ともに 6 割以上の人が定年制があると回答。そして、男女ともに約 8 割の人が今後も仕事を続けたいか、現在、無職でも仕事に就きたいと考えている。そのうち、少なくとも年金を受給できるようになるまでは働きたいと考えている人が大半を占める。さらに、今後も就業意向がある人の 7 割以上が 65 歳以降も働きたいと考えている。キャリアアップのために何もしていない人が 6 割以上を占める。キャリアアップのための取り組みをしている場合、研修・職業訓練は職場の制度を利用し、仕事に関連するスキル・資格の取得は職場の制度を利用しない傾向が強い。現在の働き方として非正規雇用を選択した理由は、男性では「希望した仕事ではないが生活のため」という回答が多い一方、女性では「自分のやりたかった仕事だから」「労働条件が自分の希望とある程度一致したから」と回答した人が多い。現在、仕事をしていない理由としては男女ともに「病気、けが、障害等のため」が最も多い。女性では「親などの介護で手が離せないから」という理由が男性に比べて多い。

(2) ご家族・家計について

本人のみの独居が最多であり、全体の 44%を占める。同居相手が多いのは「母親」。生計維持の中心者は男性では「本人」、女性では「父親」が多い。誰かと同居している場合、その理由は「子どもの頃から同居しているため」が最も多く、次いで「自分の生活費を節約したいため」「自分の所得だけでは生活が難しいため」が続く。世帯の収入源としては「自分の仕事の収入」のある人が最も多く、70%以上を占める。次いで「親の年金収入」が続

く。本人に仕事からの収入がある場合、「200 万円以上～300 万円未満」の割合が最も高い。さらに、自由に使える収入が年間 100 万円未満の人は約 50%、自由に使える収入がない人は 21%、貯蓄や資産形成に回した金額についても約半数が「ない」と回答した。10 万円以上 15 万円未満の世帯も多い。9 割以上の人は住宅ローンや住宅ローン以外のローンの残高が 0 円。資産形成の手段としては、男女問わず「預貯金」を選択した人が多い。

(3) 住まいについて

現在の住まいは「親の持ち家」「賃貸住宅」「自分の持ち家」の順。家賃月額は「4 万円～6 万円未満」がトップ。老後の住まいは「現在の住まいにそのまま住み続ける」が全体の 47.5%、「1 人で暮らすつもり」が全体の 40.7%を占めた。

(4) 不安・満足度等

健康状態は「まあ健康」が全体の 44.2%であり、トップである。8 割以上の人は日常生活に支障がない。経済的に援助してくれる人が現在「特にいない」と答えた人は男性 60%、女性 41%、家事や看護を手伝ってくれる人が現在「特にいない」と答えた人は男性 61%、女性 44%、悩みを聞いてくれる人が現在「特にいない」と答えた人は男性 65%、女性 39%であった。老後においては、男女格差が小さくなるものの、「特にいない」人の割合は男女ともに高くなり、男性の場合、いずれも 8 割前後となっていた。現在の生活の満足度は「収入」「資産・貯蓄」が特に低い。その一方、「家族」「友人」に関しては満足度が比較的高い。老後の生活については「老後の生活全般」「自分自身の健康のこと」について、特に不安を感じている。現在における異性との交際については「交際相手も異性の友人もいない」と回答した割合が全体の 52.5%を占め、今後「結婚するつもりはない」という回答も全体の過半数を占める。過去に介護経験があるのは全体の約 2 割である。介護経験がある場合、「母親」の介護が最も多く、次いで「父親」となっている。回答者の 1 割強は「仕事をやめて自分で介護」と回答した。親の介護が必要になった場合の主な対処方法としては、「ホームヘルプサービス、訪問看護などの在宅介護を利用」が全体の約 20%を占め、次いで「会社の介護休業制度などを利用し自分で介護」となっていた。「仕事をやめて自分で介護」という回答は全体で 13.7%であり、男女差はほとんどなかった。

(5) 老後の生活について

老後の生活設計を「まだ考えていない」人が全体の 3 分の 2 近くを占めている。老後の生活設計を考えていない主な理由は「収入が少なく、今の生活で精一杯のため」にある。老後の収入源としては「公的年金」「仕事による収入」「預貯金」の 3 つを考えている人が多い。将来受け取ることができる公的年金の見込み額は、月額 15 万円未満としている人が全体の 30%前後を占めている。公的年金の希望受給開始年齢は男女とも「65 歳」が最も多い。66 歳以降で公的年金を受給したい場合、その主な理由は「65 歳以降も働くから」である。自分自身の介護が必要になった場合の対処についての回答は「自宅でホームヘルプサービス、訪問介護などの在宅介護・デイサービスを利用する」が男女とも約 40%を占めていた。

(6) 独身生活のメリット・デメリットおよび新型コロナの影響

独身生活を続けてきて感じたことについては、全体の 40.2%が「自由に使える時間が多い」と答える一方、全体の 39.9%は「老後のことを考えると不安」と回答した。さらに、

結婚しなくてよかったという回答は男女とも 20%強となっていた。

新型コロナウイルスの流行による生活への影響については、全体の 23.4%が「自分の仕事や収入が減少した」と回答。連日の報道や外出制限によって気鬱になった人は全体の 31%であった。

(7) 60 歳前後で変わったこと

60 歳を境にして 60 歳未満の人と変わる主な点は次のとおりである。まず第 1 に、仕事に就いていない人の割合が高くなり、男女とも 40%強になっている。第 2 に、仕事に就いている場合、30 歳未満の事業所に勤務している人の割合が男女とも一段と上昇し、零細企業へのシフトが生じている。第 3 に、現在の仕事に 30 年以上にわたって就いている人の割合が男女とも 20%程度となっており、長期勤続者のウェイトもそれなりに高い。第 4 に、週 4 日以下の勤務日数者の割合や、1 日 8 時間未満で働いている人の割合が上昇している。第 5 に、男性の場合、半数近くの人が今後は引退したい、あるいは無職のままで将来も仕事に就くつもりはない、と回答している。一方、女性の 45%弱は現在の仕事を続けていきたい、としている。第 6 に、現在、仕事に就いていない主な理由が男女とも「自分が仕事に就かなくても、生活できるから」に変わる。第 7 に、女性の場合、生計維持の中心者が父親から本人に変わった人が多い。第 8 に、自分の年金収入がある人が男女とも増える一方、親の年金収入を失う人も少なくない。第 9 に、本人に仕事からの収入があっても、それが年間 300 万円未満の低所得者の割合が上昇している。第 10 に、保有している金融資産額 2000 万円以上の人は男女とも 34%であった。多数派（40%弱）は 500 万円未満であった。第 11 に、60 歳未満の人の方が遅めの公的年金受給開始（66 歳以降）を希望する割合が高かった。

1. はじめに

1.1 現在の就業状況

現在の就業状況は、男女共に「正社員」が一番多い。サンプル全体では 40.3%、男性サンプルでは 43.8%、女性サンプルでは 36.9%を占める。一方、男女共に、約 20%の人が仕事に就いていない。また、非正規社員（パート、アルバイト、契約社員・嘱託、派遣社員の合計）の割合は、全体サンプルで 24.4%である。男女別にみると、男性サンプルでは 18.1%、女性サンプルでは 30.7%である。男性と比較すると、女性の方が非正規の割合が高い。

図表 1 従業上の地位（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
経営者・役員	42	1.7%	35	2.8%	7	0.6%
正社員	1008	40.3%	547	43.8%	461	36.9%
パート	179	7.2%	32	2.6%	147	11.8%
アルバイト	142	5.7%	81	6.5%	61	4.9%
契約社員・嘱託	174	7.0%	66	5.3%	108	8.6%
派遣社員	113	4.5%	46	3.7%	67	5.4%
自営業	145	5.8%	104	8.3%	41	3.3%
家族従業員	7	0.3%	5	0.4%	2	0.2%
自由業	112	4.5%	52	4.2%	60	4.8%
内職	15	0.6%	3	0.2%	12	1.0%
その他	24	1.0%	13	1.0%	11	0.9%
仕事に就いていない（家事専従者を含む）	539	21.6%	266	21.3%	273	21.8%
合計	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

60 歳台前半層のみでは、仕事に就いていない人が男女ともに 40%強になっており、60 歳未満の人との違いが大きい。また、男女とも非正規の人が 30%前後となり、正規の人（15%前後）を上回っている。

図表 2 従業上の地位（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
経営者・役員	5	1.8%	5	3.2%	0	0.0%
正社員	39	13.9%	19	12.3%	20	15.9%
パート	23	8.2%	6	3.9%	17	13.5%
アルバイト	24	8.6%	16	10.4%	8	6.3%
契約社員・嘱託	32	11.4%	18	11.7%	14	11.1%
派遣社員	5	1.8%	4	2.6%	1	0.8%
自営業	23	8.2%	15	9.7%	8	6.3%
家族従業者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自由業	9	3.2%	5	3.2%	4	3.2%
内職	2	0.7%	0	0.0%	2	1.6%
その他	4	1.4%	3	1.9%	1	0.8%
仕事についていない	114	40.7%	63	40.9%	51	40.5%
合計	280	100.0%	154	100.0%	126	100.0%

1.2 勤務先の規模

図表3は、現在、仕事をしている人について、勤務先の従業員規模の分布を示したものである。全体で最も多くの人が勤務しているのは30人未満の零細事業所であり、30%前後となっている。次いで、「1000人以上」であり、官公庁を加えると25%弱を占める。勤務先の規模については、男女間に大きな差はない。

図表3 勤務先の規模（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0人 *自分を含まず	123	6.7%	80	8.6%	43	4.8%
1人以上～5人未満	157	8.6%	82	8.8%	75	8.3%
5人以上～30人未満	274	14.9%	133	14.3%	141	15.6%
30人以上～100人未満	256	14.0%	127	13.7%	129	14.3%
100人以上～300人未満	198	10.8%	104	11.2%	94	10.4%
300人以上～1000人未満	199	10.9%	110	11.8%	89	9.8%
1000人以上	366	20.0%	173	18.6%	193	21.3%
官公庁	65	3.5%	36	3.9%	29	3.2%
わからない	196	10.7%	84	9.0%	112	12.4%
回答者	1834	100.0%	929	100.0%	905	100.0%

60歳台前半層のみでは、30人未満の規模の事業所に勤める人の割合が男女とも一段と上昇している。一方、「1000人以上プラス官公庁」の割合は若干ながら低下している。

図表4 勤務先の規模（60～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0人 *自分を含まず	16	10.3%	10	11.6%	6	8.7%
1人以上～5人未満	18	11.6%	10	11.6%	8	11.6%
5人以上～30人未満	21	13.5%	13	15.1%	8	11.6%
30人以上～100人未満	29	18.7%	15	17.4%	14	20.3%
100人以上～300人未満	9	5.8%	4	4.7%	5	7.2%
300人以上～1000人未満	15	9.7%	10	11.6%	5	7.2%
1000人以上	27	17.4%	14	16.3%	13	18.8%
官公庁	5	3.2%	2	2.3%	3	4.3%
わからない	15	9.7%	8	9.3%	7	10.1%
回答者	155	100.0%	86	100.0%	69	100.0%

1.3 仕事の内容

図表5では、現在、仕事をしている人について、就業先の仕事内容を整理した結果である（対象者は40～64歳）。男女別にみると、男性は「専門知識・技術をいかした仕事」に

就いている人が最も多く、次いで「事務的な仕事」「製造の仕事」の順となっている。女性の場合、半数近い人が「事務的な仕事」に就いており、その割合は44.3%である。次いで、「専門知識・技術をいかした仕事」「サービスの仕事」の順となっている。

図表5 就業先の業種（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
専門知識・技術をいかした仕事	425	21.7%	237	24.1%	188	19.2%
管理的な仕事	92	4.7%	65	6.6%	27	2.8%
事務的な仕事	576	29.4%	143	14.5%	433	44.3%
営業・販売の仕事	156	8.0%	89	9.0%	67	6.9%
サービスの仕事	223	11.4%	105	10.7%	118	12.1%
農林漁業の仕事	20	1.0%	16	1.6%	4	0.4%
保安の仕事	28	1.4%	27	2.7%	1	0.1%
運輸・建設の仕事	84	4.3%	75	7.6%	9	0.9%
製造の仕事	169	8.6%	124	12.6%	45	4.6%
その他	93	4.7%	54	5.5%	39	4.0%
わからない	95	4.8%	49	5.0%	46	4.7%
回答者	1961	100.0%	984	100.0%	977	100.0%

1.4 現在の仕事の継続期間（現在、働いている人のみ）

現在の仕事の平均勤続年数は、男性サンプルの場合、13.71年、女性サンプル11.64年である（60～64歳層を含む）。分布をみると、現在の仕事の継続期間が「5年未満」の人が最も多い。女性の方が男性よりも現在の仕事の継続期間は短い傾向にある。

図表6 現在の仕事の継続期間（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
5年未満	503	25.7%	213	21.6%	290	29.7%
5～10年未満	380	19.4%	201	20.4%	179	18.3%
10～15年未満	320	16.3%	153	15.5%	167	17.1%
15～20年未満	264	13.5%	137	13.9%	127	13.0%
20～25年未満	237	12.1%	124	12.6%	113	11.6%
25～30年未満	115	5.9%	62	6.3%	53	5.4%
30年以上	142	7.2%	94	9.6%	48	4.9%
合計	1961	100.0%	984	100.0%	977	100.0%
平均値（年）	12.68		13.71		11.64	

60 歳台前半層のみに着目すると、「5 年未満」が最多という点では変わりはないものの、「30 年以上」が男女とも 20%程度となっており、長期勤続者も少なくない。ただ、男女とも 20 年未満の人が 70%前後を占めている。この点は 40～64 歳全体とほとんど変わらない。

図表 7 現在の仕事の継続期間（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
5年未満	42	25.3%	22	24.2%	20	26.7%
5～10年未満	30	18.1%	20	22.0%	10	13.3%
10～15年未満	31	18.7%	17	18.7%	14	18.7%
15～20年未満	14	8.4%	6	6.6%	8	10.7%
20～25年未満	10	6.0%	4	4.4%	6	8.0%
25～30年未満	5	3.0%	3	3.3%	2	2.7%
30年以上	34	20.5%	19	20.9%	15	20.0%
合計	166	100.0%	91	100.0%	75	100.0%
平均値（年）	15.06		15.01		15.12	

1.5 1 週間の労働日数（現在、働いている人のみ）

1 週間の平均労働日数は、男性が 4.9 日、女性 4.81 日である（60～64 歳層を含む）。男女とも週 5 日の人が 70%強となっている。

図表 8 1 週間の労働日数（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
1日	21	1.1%	10	1.0%	11	1.1%
2日	32	1.6%	13	1.3%	19	1.9%
3日	89	4.5%	34	3.5%	55	5.6%
4日	137	7.0%	53	5.4%	84	8.6%
5日	1427	72.8%	710	72.2%	717	73.4%
6日	209	10.7%	134	13.6%	75	7.7%
7日	46	2.3%	30	3.0%	16	1.6%
合計	1961	100%	984	100%	977	100%
平均値（日）	4.9		4.99		4.81	

60歳台前半層のみでは、男女とも週5日勤務が最多となっている。ただし、その割合は63%弱、女性53%弱であり、いずれも低下した。代わりに構成割合が上昇したのは週4日以下の人である。

図表9 1週間の労働日数（60～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
1日	5	3.0%	1	1.1%	4	5.3%
2日	11	6.6%	5	5.5%	6	8.0%
3日	10	6.0%	2	2.2%	8	10.7%
4日	18	10.8%	8	8.8%	10	13.3%
5日	97	58.4%	57	62.6%	40	53.3%
6日	18	10.8%	12	13.2%	6	8.0%
7日	7	4.2%	6	6.6%	1	1.3%
合計	166	100%	91	100%	75	100%
平均値（日）	4.64		4.92		4.31	

1.6 1日の労働時間（現在、働いている人のみ）

1日の平均労働時間は男性8.15時間、女性7.57時間である（60～64歳層を含む）。1日の労働時間の分布をみると、男性の74.8%、女性の58.3%が「8時間以上～12時間未満」で働いている。男性の方が長時間働く人が多い。

図表10 1日の労働時間（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
4時間未満	49	2.5%	22	2.2%	27	2.8%
4～8時間未満	545	27.8%	192	19.5%	353	36.1%
8～12時間未満	1306	66.6%	736	74.8%	570	58.3%
12～16時間未満	40	2.0%	23	2.3%	17	1.7%
16時間以上	21	1.1%	11	1.1%	10	1.0%
合計	1961	100%	984	100%	977	100%
平均値（時間）	7.86		8.15		7.57	

60～64 歳層では、女性の場合、8 時間未満の人が最多で 60%近く、男性も 40%弱となっていた。ただ、男性の場合、「8 時間以上 12 時間未満」の人が 56%を占め、依然として多い。

図表 11 1 日の労働時間（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
4時間未満	10	6.0%	4	4.4%	6	8.0%
4～8時間未満	70	42.2%	32	35.2%	38	50.7%
8～12時間未満	79	47.6%	51	56.0%	28	37.3%
12～16時間未満	5	3.0%	3	3.3%	2	2.7%
16時間以上	2	1.2%	1	1.1%	1	1.3%
合計	166	100%	91	100%	75	100%
平均値（時間）	7.32		7.64		6.93	

1.7 定年の有無とその年齢（現在、働いている人のみ）

現在、働いている人のうち、全体として 66.2%のが「定年あり」と回答している。男性サンプルで「定年あり」と回答した割合は 68.4%、女性サンプルで「定年あり」と回答した割合は 64%である。

定年がある場合、定年年齢は「60 歳」の割合が最も高く、次いで「65 歳」となっている。定年年齢が「66 歳以上」の割合は全体として 2.8%である。定年年齢の分布は性別によって大きな差異がない。

図表 12 定年の有無（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
定年なし	561	33.8%	255	31.6%	306	36.0%
定年あり	1097	66.2%	552	68.4%	545	64.0%
回答者	1658	100%	807	100%	851	100%

図表 13 定年年齢の分布（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
60歳	695	63.4%	347	62.9%	348	63.9%
61～64歳	19	1.7%	11	2.0%	8	1.5%
65歳	352	32.1%	179	32.4%	173	31.7%
66歳以上	31	2.8%	15	2.7%	16	2.9%
回答者	1097	100%	552	100%	545	100%

1.8 今後の働き方

今後の働き方について、男女ともに「現在の仕事を続けていきたい」人の割合が最も高く、45.5%前後を占める（40～64 歳層全体）。一方、「現在の仕事をやめて引退したい（その後は仕事につかない）」と「現在無職で、将来も仕事に就くつもりはない」の合計割合は、全体サンプルで 18.2%、男性サンプルで 21.8%、女性サンプルで 15%である。約 8 割の回答者は、今後も仕事を続けたいか、現在、無職でも仕事に就きたいと考えている。

図表 14 今後の働き方（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
現在の仕事を続けていきたい	1140	45.6%	569	45.5%	571	45.7%
現在の仕事を続けるが、将来、定年や事業を子ども等に譲った後は別の仕事をしてみたい	212	8.5%	113	9.0%	99	7.9%
現在の仕事をやめて、転職を考えている	365	14.6%	167	13.4%	198	15.8%
現在の仕事をやめて、引退したい（その後は仕事につかない）	209	8.4%	123	9.8%	86	6.9%
現在は仕事をしていないが、適当な仕事をさがしている	123	4.9%	52	4.2%	71	5.7%
現在は働けないが、いつか仕事につきたい	159	6.4%	68	5.4%	91	7.3%
現在無職で、将来も仕事に就くつもりはない	245	9.8%	144	11.5%	101	8.1%
その他	47	1.9%	14	1.1%	33	2.6%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

60 歳台前半の男性だけに限定すると、「現在無職で、将来も仕事に就くつもりはない」「現在の仕事をやめて、引退したい」の合計が半数近い。一方、「現在の仕事を続けていきたい」人も 39%弱を占め、それなりに多い。

女性の場合、「現在の仕事を続けていきたい」人が 44.4%となっており、その割合は男性より高い。

図表 15 今後の働き方（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
現在の仕事を続けていきたい	108	38.6%	52	33.8%	56	44.4%
現在の仕事を続けるが、将来、定年や事業を子ども等に譲った後は別の仕事をしてみたい	7	2.5%	5	3.2%	2	1.6%
現在の仕事をやめて、転職を考えている	14	5.0%	8	5.2%	6	4.8%
現在の仕事をやめて、引退したい（その後は仕事につかない）	34	12.1%	23	14.9%	11	8.7%
現在は仕事をしていないが、適当な仕事をさがしている	14	5.0%	5	3.2%	9	7.1%
現在は働けないが、いつか仕事につきたい	12	4.3%	5	3.2%	7	5.6%
現在無職で、将来も仕事に就くつもりはない	85	30.4%	52	33.8%	33	26.2%
その他	6	2.1%	4	2.6%	2	1.6%
回答者	280	100.0%	154	100.0%	126	100.0%

図表 16 は、今後も働きたい、あるいは、現在は無職だが、いつか働きたい、と考えている人が、いつまで働きたいか、について回答した結果を整理したものである（40～64 歳層全体）。男女ともに「可能な限り働きたい」と回答したのは 60%強、「年金受給年齢を迎えるまで働き、その後は引退したい」と回答したのは約 20%弱である。一方、男女ともに「年金受給年齢を迎える前に仕事をやめ、そのまま引退したい」は約 3%台、「定年を迎えるまでは働き、その後は引退したい」と回答したのは男性 7%、女性 6%である。少なくとも年金を受給できるようになるまでは働きたいと考えている人が大半を占める。なお、60～64 歳層に限定した結果も 40～64 歳層全体のそれと大差がなかった。

図表 16 いつごろまで働きたいか（今後も働き続けたい人）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
可能な限り働き続けたい	1387	61.5%	672	60.8%	715	62.2%
年金受給年齢を迎えるまで働き、その後は引退したい（その後は仕事につかない）	439	19.5%	217	19.6%	222	19.3%
年金受給年齢を迎える前に仕事をやめ、そのまま引退したい（その後は仕事につかない）	78	3.5%	42	3.8%	36	3.1%
定年を迎えるまで働き、その後は引退したい（その後は仕事につかない）	146	6.5%	77	7.0%	69	6.0%
定年を迎える前に仕事をやめ、そのまま引退したい（その後は仕事につかない）	154	6.8%	80	7.2%	74	6.4%
その他	51	2.3%	18	1.6%	33	2.9%
回答者	2255	100.0%	1106	100.0%	1149	100.0%

1.9 退職意向年齢

今後も働きたい人に何歳まで働き続けたいか、を質問したところ、65 歳以上という回答が 73.6%を占める。70 歳以上と回答した人は働きたいと考えている人全体の 40%を占め、高年齢までの就業意欲が高い。男女別に検討すると、男性の方が女性よりも退職意向年齢が高い。ただ、60～64 歳では 70 歳以上も働きたいと考えている女性割合は男性のそれとほとんど変わらない。

図表 17 退職意向年齢（今後も働く意欲がある人）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
45歳未満	21	0.9%	13	1.2%	8	0.7%
45～50歳未満	27	1.2%	13	1.2%	14	1.2%
50～55歳未満	73	3.2%	38	3.4%	35	3.0%
55～60歳未満	86	3.8%	34	3.1%	52	4.5%
60～65歳未満	387	17.2%	162	14.6%	225	19.6%
65～70歳未満	758	33.6%	352	31.8%	406	35.3%
70歳～75歳未満	564	25.0%	293	26.5%	271	23.6%
75歳以上	339	15.0%	201	18.2%	138	12.0%
全体	2255	100.0%	1106	100.0%	1149	100.0%
平均値（歳）	66.6		67.4		65.83	

図表 18 退職意向年齢（今後も働く意欲がある人）（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
45歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
45～50歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50～55歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
55～60歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
60～65歳未満	13	6.7%	7	6.9%	6	6.5%
65～70歳未満	78	40.0%	42	41.2%	36	38.7%
70歳～75歳未満	68	34.9%	35	34.3%	33	35.5%
75歳以上	36	18.5%	18	17.6%	18	19.4%
全体	195	100.0%	102	100.0%	93	100.0%
平均値（歳）	69.33		69.31		69.34	

1.10 初職における従業上の地位

「今まで仕事についてたことがない」人の割合は男性 3%、女性 1.9%である。回答者のほとんど全員が何かしらの仕事を経験している。初職における従業上の地位は「正社員」が最も多く、男性 68.8%、女性 64%である。一方、初職における従業上の地位が非正規の割合は男性 18.9%、女性 27.8%であり、女性の方が非正規社員の割合は高い。

図表 19 初職における従業上の地位（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
経営者・役員	25	1.0%	17	1.4%	8	0.6%
正社員	1660	66.4%	860	68.8%	800	64.0%
パート	96	3.8%	22	1.8%	74	5.9%
アルバイト	302	12.1%	148	11.8%	154	12.3%
契約社員・嘱託	133	5.3%	44	3.5%	89	7.1%
派遣社員	53	2.1%	22	1.8%	31	2.5%
自営業	70	2.8%	47	3.8%	23	1.8%
家族従業員	11	0.4%	10	0.8%	1	0.1%
自由業	62	2.5%	29	2.3%	33	2.6%
内職	12	0.5%	4	0.3%	8	0.6%
その他	15	0.6%	10	0.8%	5	0.4%
今まで仕事についていない	61	2.4%	37	3.0%	24	1.9%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

1.11 これまでのキャリア

就業経験がある人のうち、キャリアの中心となった従業上の地位は「正社員」が最も多く、全体の 63.7%を占める。男女別にみると、「正社員」である割合は男性 69.6%、女性 57.8%である。男性の方が 10 ポイント強ほど高い。なお、女性の場合、キャリアの中心となった地位が非正規社員である人が全体の 33.3%を占める。

図表 20 これまでのキャリアの中心となった仕事（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
経営者・役員	42	1.7%	35	2.9%	7	0.6%
正社員	1553	63.7%	844	69.6%	709	57.8%
パート	148	6.1%	23	1.9%	125	10.2%
アルバイト	159	6.5%	76	6.3%	83	6.8%
契約社員・嘱託	137	5.6%	40	3.3%	97	7.9%
派遣社員	144	5.9%	41	3.4%	103	8.4%
自営業	113	4.6%	81	6.7%	32	2.6%
家族従業員	13	0.5%	10	0.8%	3	0.2%
自由業	92	3.8%	42	3.5%	50	4.1%
内職	9	0.4%	3	0.2%	6	0.5%
収入のない仕事	14	0.6%	8	0.7%	6	0.5%
その他	15	0.6%	10	0.8%	5	0.4%
回答者	2439	100.0%	1213	100.0%	1226	100.0%

1.12 転職の回数

働いたことがある人のうち、転職回数を「0回」と回答した割合は男性 28.5%、女性 18.4%であり、女性の方が男性と比較して 2 回以上転職した人が多い。

図表 21 転職の回数（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0回	571	23.4%	346	28.5%	225	18.4%
1回	376	15.4%	213	17.6%	163	13.3%
2回	327	13.4%	155	12.8%	172	14.0%
3回	382	15.7%	167	13.8%	215	17.5%
4回	211	8.7%	93	7.7%	118	9.6%
5回	265	10.9%	112	9.2%	153	12.5%
6～10回	265	10.9%	112	9.2%	153	12.5%
11回以上	42	1.7%	15	1.2%	27	2.2%
回答者数	2439	100.0%	1213	100.0%	1226	100.0%
平均値（回）	3.04		2.71		3.36	

1.13 キャリアアップのための取り組み

今まで行ってきた、あるいは現在行っているキャリアアップの取り組みについては、雇用されている人の 63%がキャリアアップのための取り組みを行っていない。キャリアアップの取り組みを行っている場合、「研修・職業訓練」は職場の制度を利用して行われ、「仕事に関するスキル・資格を取得」は職場の制度を利用せず行われる傾向がある。

男女別では、男性の場合、職場の制度を利用してキャリアアップのための取り組みを行う割合が高い。一方、女性の場合、職場の制度を利用しないでキャリアアップのための取り組みを行う割合が高い。

図表 22 キャリアアップのための取り組み（雇用されている回答者のみ・複数回答可）

		全体		男性		女性	
		人数	%	人数	%	人数	%
職場の制度を利用	研修・職業訓練などを受けた（受けている）	299	18.0%	168	20.8%	131	15.4%
	海外留学をした（する予定）	20	1.2%	10	1.2%	10	1.2%
	仕事に関連するスキル・資格を取得した（取得のための勉強中）	202	12.2%	98	12.1%	104	12.2%
職場の制度を利用せず	研修・職業訓練などを受けた（受けている）	142	8.6%	51	6.3%	91	10.7%
	海外留学をした（する予定）	36	2.2%	7	0.9%	29	3.4%
	仕事に関連するスキル・資格を取得した（取得のための勉強中）	272	16.4%	108	13.4%	164	19.3%
その他		3	0.2%	1	0.1%	2	0.2%
特になし		1045	63.0%	518	64.2%	527	61.9%
回答者数		1658	100.0%	807	100.0%	851	100.0%

注）「雇用されている者」とは、現在の仕事について、「経営者・役員」、「正社員」、「パート」、「アルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」のいずれかを回答した者を指す。

1.14 現在の働き方として非正規雇用を選んだ理由

非正規雇用（パート、アルバイト、契約社員・嘱託・派遣社員）で働いている理由としては、男性の場合、最も回答割合が高いのは「希望した仕事ではないが生活のため」であり、44%を占める。女性で最も回答割合が高いのは「労働条件が自分の希望とある程度一致したから」であり、43.3%を占める。なお女性では「自分のやりたかった仕事だから」という回答が男性と比較して多い。

図表 23 非正規雇用を選んだ理由（複数回答可）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分のやりたかった仕事だから	109	17.9%	29	12.9%	80	20.9%
労働条件が自分の希望とある程度一致したから	242	39.8%	76	33.8%	166	43.3%
希望した仕事ではないが生活のため	243	40.0%	99	44.0%	144	37.6%
倒産・リストラ等で前の会社を辞めざるを得なかったから	44	7.2%	21	9.3%	23	6.0%
病気、けが、障害等のため	34	5.6%	14	6.2%	20	5.2%
親などの介護のため現在フルタイムで働けないから	34	5.6%	9	4.0%	25	6.5%
家庭内で家事等を受け持っているから	15	2.5%	2	0.9%	13	3.4%
前に勤めていた会社は自分に合わず退職したから	88	14.5%	36	16.0%	52	13.6%
退職・役職定年などを機に働き方を変えたから	22	3.6%	7	3.1%	15	3.9%
その他	13	2.1%	3	1.3%	10	2.6%
回答者数	608	100.0%	225	100.0%	383	100.0%

1.15 現在、仕事に就いていない理由

40～64 歳層全体では、男女共に「病気、けが、障害等のため」が最も多く、男性は 38.7%、女性 37.7%となっていた。次いで多い回答は、「自分が仕事に就かなくても生活できるから」である。特に男性の場合、そのような回答が 34.2%を占める。なお、回答者数自体は多くないものの、「親などの介護で手が離せないから」は男女差が大きい。男性サンプルで 4.1%に対し、女性サンプルでは 14.7%を占める。

図表 24 現在、仕事に就いていない理由（複数回答可）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分が仕事に就かなくても、生活できるから	154	28.6%	91	34.2%	63	23.1%
事業の後継者ができたから	1	0.2%	0	0.0%	1	0.4%
希望する仕事に就けないから	77	14.3%	40	15.0%	37	13.6%
病気、けが、障害等のため	206	38.2%	103	38.7%	103	37.7%
親などの介護で手が離せないから	60	11.1%	20	7.5%	40	14.7%
家事等で手が離せないから	42	7.8%	11	4.1%	31	11.4%
求職中（職業訓練中）	81	15.0%	40	15.0%	41	15.0%
その他	25	4.6%	9	3.4%	16	5.9%
回答者数	539	100.0%	266	100.0%	273	100.0%

60～64 歳層に限定すると、男女とも「自分が仕事に就かなくても、生活できるから」が最多となり、50%前後を占める。

図表 25 現在、仕事についていない理由（複数回答可）（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分が仕事に就かなくても、生活できるから	56	49.1%	33	52.4%	23	45.1%
事業の後継者ができたから	1	0.9%	0	0.0%	1	2.0%
希望する仕事に就けないから	8	7.0%	5	7.9%	3	5.9%
病気、けが、障害等のため	21	18.4%	14	22.2%	7	13.7%
親などの介護で手が離せないから	14	12.3%	7	11.1%	7	13.7%
家事等で手が離せないから	7	6.1%	2	3.2%	5	9.8%
求職中（職業訓練中）	7	6.1%	5	7.9%	2	3.9%
その他	13	11.4%	4	6.3%	9	17.6%
回答者数	114	100.0%	63	100.0%	51	100.0%

2 ご家族・家計について

2.1 世帯人数

本人のみの独居が男女問わず最も多く、全体では 44.1%を占める。次いで、「本人を除いて 2 人（3 人暮らし）」「本人を除いて 1 人（2 人暮らし）」となっていた。男女別にみると、1 人暮らしの割合は男性 46.6%、女性 41.7%であり、男性の方が女性よりも 1 人暮らしをする割合が多少とも高い。

図表 26 世帯人員数（40～64 歳）

		0 人（1 人暮らし）	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人以上	合計
全体	人数	1103	466	550	285	67	13	5	7	4	2500
	%	44.1%	18.6%	22.0%	11.4%	2.7%	0.5%	0.2%	0.3%	0.2%	100%
男性	人数	582	223	261	140	34	6	1	3	0	1250
	%	46.6%	17.8%	20.9%	11.2%	2.7%	0.5%	0.1%	0.2%	0.0%	100%
女性	人数	521	243	289	145	33	7	4	4	4	1250
	%	41.7%	19.4%	23.1%	11.6%	2.6%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	100%

2.2 （同居人がいる人のみ）同居者の内訳

1 番多い同居人は「母親」であり、男女とも 80%以上を占める。2 番目に多い同居人は「父親」であり、50%以上を占める。同居者の内訳については男女に大きな差異がない。

図表 27 同居人の内訳（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
父親	779	55.8%	385	57.6%	394	54.0%
母親	1203	86.1%	595	89.1%	608	83.4%
兄	95	6.8%	33	4.9%	62	8.5%
弟	116	8.3%	59	8.8%	57	7.8%
姉	94	6.7%	30	4.5%	64	8.8%
妹	123	8.8%	61	9.1%	62	8.5%
祖父	4	0.3%	2	0.3%	2	0.3%
祖母	24	1.7%	16	2.4%	8	1.1%
その他親族	47	3.4%	20	3.0%	27	3.7%
友人	13	0.9%	2	0.3%	11	1.5%
その他	20	1.4%	4	0.6%	16	2.2%
回答者数	1397	100.0%	668	100.0%	729	100.0%

2.3 （同居人がいる人のみ）世帯の中における生計維持の中心者

世帯内における生計維持の中心者については、男性の場合、約 50%が「自分が生計維持の中心者」と回答。女性の場合、父親が主な生計維持の中心者である割合が最も高く、約 40%である。女性自身が生計維持の中心者である割合は男性と比較して 20 ポイント近く低い。

図表 28 世帯の中における生計維持の中心者（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
あなた自身	547	39.2%	327	49.0%	220	30.2%
父親	496	35.5%	207	31.0%	289	39.6%
母親	252	18.0%	107	16.0%	145	19.9%
兄	35	2.5%	13	1.9%	22	3.0%
弟	21	1.5%	4	0.6%	17	2.3%
姉	21	1.5%	4	0.6%	17	2.3%
妹	12	0.9%	4	0.6%	8	1.1%
祖父	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
その他親族	4	0.3%	1	0.1%	3	0.4%
友人	5	0.4%	0	0.0%	5	0.7%
その他	2	0.1%	0	0.0%	2	0.3%
回答者	1397	100.0%	668	100.0%	729	100.0%

60～64 歳層だけに着目すると、男女とも 60%弱が生計維持の中心者は本人であると回答している。「父親」という回答は女性の場合、13%へと激減し、代わりに「母親」という回答が男女とも 20%台となっている。

図表 29 世帯の中における生計維持の中心者（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
あなた自身	71	57.3%	38	59.4%	33	55.0%
父親	13	10.5%	5	7.8%	8	13.3%
母親	30	24.2%	17	26.6%	13	21.7%
兄	3	2.4%	1	1.6%	2	3.3%
弟	4	3.2%	1	1.6%	3	5.0%
姉	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
妹	3	2.4%	2	3.1%	1	1.7%
祖父	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他親族	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
友人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答者	124	100.0%	64	100.0%	60	100.0%

2.4 （同居人がいる人のみ）同居の理由

同居の理由について、男女全体では「子どもの頃から同居しているため」が最も多く、全体の 42.3%を占める。次いで「自分の生活費を節約したいため」「自分の所得だけでは生活が難しいため」が多く、それぞれ 27.8%、26.5%を占める。同居人を援助するために同居するのではなく、同居人に援助を受けるために同居している傾向がある。

男女別に検討すると、女性は男性と比べて「子どもの頃から同居しているため」という理由を選択した割合が高い（男性 36.2%、女性 47.9%）。女性は実家で過ごし続ける傾向がある一方、男性の場合、いったん実家を出て、再び戻っている（もしくは自分の持ち家を購入し、親と一緒に暮らす）可能性が考えられる。

図表 30 同居の理由（40～64 歳：複数回答可）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
介護のため	157	11.2%	77	11.5%	80	11.0%
同居者の身の回りの世話をするため	242	17.3%	116	17.4%	126	17.3%
金銭的に同居者の生活を支えるため	168	12.0%	99	14.8%	69	9.5%
自分の生活費を節約したいため	388	27.8%	197	29.5%	191	26.2%
自分の所得だけでは生活が難しいため	370	26.5%	149	22.3%	221	30.3%
親の健康保険の扶養となるため	68	4.9%	32	4.8%	36	4.9%
家事など自分の身の回りの世話をみてもらえるため	148	10.6%	77	11.5%	71	9.7%
自分自身の健康上の問題	162	11.6%	70	10.5%	92	12.6%
自分の仕事の都合	145	10.4%	83	12.4%	62	8.5%
親族としての義務	262	18.8%	141	21.1%	121	16.6%
子供の頃から同居しているため	591	42.3%	242	36.2%	349	47.9%
その他	22	1.6%	4	0.6%	18	2.5%
回答者	1397	100.0%	668	100.0%	729	100.0%

2.5 世帯全体の年間収入額

全体で 1 番多いのは「200 万円以上～300 万円未満」、次いで多いのは、「300 万円以上～400 万円未満」である。女性と比較して、男性の方が高い所得階層にまで分布が広がっている。

図表 31 世帯全体の年間収入額の分布（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	195	7.8%	95	7.6%	100	8.0%
100万円未満	211	8.4%	102	8.2%	109	8.7%
100万円以上～200万円未満	322	12.9%	146	11.7%	176	14.1%
200万円以上～300万円未満	422	16.9%	176	14.1%	246	19.7%
300万円以上～400万円未満	348	13.9%	161	12.9%	187	15.0%
400万円以上～500万円未満	266	10.6%	136	10.9%	130	10.4%
500万円以上～600万円未満	222	8.9%	131	10.5%	91	7.3%
600万円以上～800万円未満	262	10.5%	151	12.1%	111	8.9%
800万円以上～1000万円未満	128	5.1%	79	6.3%	49	3.9%
1000万円以上～1500万円未満	86	3.4%	51	4.1%	35	2.8%
1500万円以上	38	1.5%	22	1.8%	16	1.3%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.6 世帯の収入源

世帯の収入源となっている項目についての回答は男女問わず「自分の仕事の収入」が最も多く、次いで「親の年金収入」となっている。

図表 32 世帯の収入源（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分の仕事の収入	1876	75.0%	942	75.4%	934	74.7%
仕事以外の収入※	149	6.0%	88	7.0%	61	4.9%
同居の方の仕事の収入	395	15.8%	165	13.2%	230	18.4%
自分の年金収入	184	7.4%	83	6.6%	101	8.1%
親の年金収入	887	35.5%	424	33.9%	463	37.0%
祖父母の年金収入	15	0.6%	11	0.9%	4	0.3%
不動産収入	85	3.4%	46	3.7%	39	3.1%
生活保護	39	1.6%	24	1.9%	15	1.2%
その他	45	1.8%	25	2.0%	20	1.6%
特にない	155	6.2%	86	6.9%	69	5.5%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

注)「仕事以外の収入」とは、アフェリエイトやネットオークション等から得られる収入を指す。

60 歳台前半層に限ってみても、男女を問わず「自分の仕事の収入」のある人が最も多く、60%弱を占めている。次いで割合が高いのは「自分の年金収入」であり、男性が 27%、女性 50%となっていた。一方、「親の年金収入」がある人は 25%前後となり、割合が低下している。

図表 33 世帯の収入源（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分の仕事の収入	163	58.2%	90	58.4%	73	57.9%
仕事以外の収入※	15	5.4%	10	6.5%	5	4.0%
同居の方の仕事の収入	20	7.1%	6	3.9%	14	11.1%
自分の年金収入	105	37.5%	42	27.3%	63	50.0%
親の年金収入	72	25.7%	38	24.7%	34	27.0%
祖父母の年金収入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不動産収入	12	4.3%	9	5.8%	3	2.4%
生活保護	10	3.6%	8	5.2%	2	1.6%
その他	11	3.9%	7	4.5%	4	3.2%
特にない	16	5.7%	9	5.8%	7	5.6%
回答者	280	100.0%	154	100.0%	126	100.0%

注)「仕事以外の収入」とは、アフェリエイトやネットオークション等から得られる収入を指す。

2.7 本人の仕事からの収入（40～64 歳）

本人の仕事からの収入で比較的多い収入階層は男性の場合、「200 万円以上～500 万円未満」、女性の場合「100 万円以上～400 万円未満」である。

図表 34 本人の仕事からの収入（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	515	20.6%	271	21.7%	244	19.5%
100万円未満	166	6.6%	68	5.4%	98	7.8%
100万円以上～200万円未満	294	11.8%	105	8.4%	189	15.1%
200万円以上～300万円未満	403	16.1%	169	13.5%	234	18.7%
300万円以上～400万円未満	378	15.1%	174	13.9%	204	16.3%
400万円以上～500万円未満	245	9.8%	130	10.4%	115	9.2%
500万円以上～600万円未満	170	6.8%	104	8.3%	66	5.3%
600万円以上～800万円未満	185	7.4%	130	10.4%	55	4.4%
800万円以上～1000万円未満	56	2.2%	37	3.0%	19	1.5%
1000万円以上～1500万円未満	36	1.4%	26	2.1%	10	0.8%
1500万円以上	52	2.1%	36	2.9%	16	1.3%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

60～64 歳層では「本人の仕事からの収入」がない人が男女とも 3 分の 1 程度を占めるようになる。また、その収入があっても年間 300 万円未満の人が男性では 37%、女性では 44%となっていた。

図表 35 本人の仕事からの収入（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	95	33.9%	54	35.1%	41	32.5%
100万円未満	29	10.4%	15	9.7%	14	11.1%
100万円以上～200万円未満	41	14.6%	19	12.3%	22	17.5%
200万円以上～300万円未満	42	15.0%	23	14.9%	19	15.1%
300万円以上～400万円未満	30	10.7%	14	9.1%	16	12.7%
400万円以上～500万円未満	9	3.2%	3	1.9%	6	4.8%
500万円以上～600万円未満	13	4.6%	9	5.8%	4	3.2%
600万円以上～800万円未満	12	4.3%	9	5.8%	3	2.4%
800万円以上～1000万円未満	3	1.1%	3	1.9%	0	0.0%
1000万円以上～1500万円未満	2	0.7%	1	0.6%	1	0.8%
1500万円以上	4	1.4%	4	2.6%	0	0.0%
回答者	280	100.0%	154	100.0%	126	100.0%

2.8 本人の仕事以外からの収入

全体の60%以上の人、仕事以外からの収入は無いと回答している。本人の仕事以外からの収入がある場合、男女共に年間「100万円未満」が最も多い。

図表 36 本人の仕事以外からの収入（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	1583	63.3%	775	62.0%	808	64.6%
100万円未満	419	16.8%	210	16.8%	209	16.7%
100万円以上～200万円未満	178	7.1%	103	8.2%	75	6.0%
200万円以上～300万円未満	105	4.2%	45	3.6%	60	4.8%
300万円以上～400万円未満	72	2.9%	37	3.0%	35	2.8%
400万円以上～500万円未満	36	1.4%	17	1.4%	19	1.5%
500万円以上～600万円未満	26	1.0%	16	1.3%	10	0.8%
600万円以上～800万円未満	32	1.3%	17	1.4%	15	1.2%
800万円以上～1000万円未満	10	0.4%	5	0.4%	5	0.4%
1000万円以上～1500万円未満	13	0.5%	6	0.5%	7	0.6%
1500万円以上	26	1.0%	19	1.5%	7	0.6%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.9 過去1年間で自由に使えた金額（年額）

生活費・交通費・冠婚葬祭などのやむを得ない交際費などを除き、自分の判断で自由に使える収入については、「年間100万円未満」という人が最も多く、50%であった。なお、「自由に使える収入がない」人は全体の21%であった。また、男性の方が女性より自分の判断で自由に使える収入が多い。

図表 37 過去1年間で自由に使えた金額（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	524	21.0%	279	22.3%	245	19.6%
100万円未満	1241	49.6%	540	43.2%	701	56.1%
100万円以上～200万円未満	381	15.2%	209	16.7%	172	13.8%
200万円以上～300万円未満	150	6.0%	88	7.0%	62	5.0%
300万円以上～400万円未満	92	3.7%	55	4.4%	37	3.0%
400万円以上～500万円未満	40	1.6%	30	2.4%	10	0.8%
500万円以上～600万円未満	19	0.8%	11	0.9%	8	0.6%
600万円以上～800万円未満	21	0.8%	13	1.0%	8	0.6%
800万円以上～1000万円未満	5	0.2%	4	0.3%	1	0.1%
1000万円以上～1500万円未満	4	0.2%	4	0.3%	0	0.0%
1500万円以上	23	0.9%	17	1.4%	6	0.5%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.10 過去1年間で自由に使えた金額のうち、貯蓄や資産形成に回した金額

男女を問わず、50%弱の人が、貯蓄・資産形成にまわした金額を「なし」と回答している。貯蓄や資産形成に自由に使える収入を回している場合、最も回答が多いのは「100万円未満」であり、次いで「100万円以上～200万円未満」となっていた。

図表 38 過去1年間に貯蓄や資産形成に回した金額（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	1219	48.8%	610	48.8%	609	48.7%
100万円未満	713	28.5%	332	26.6%	381	30.5%
100万円以上～200万円未満	335	13.4%	168	13.4%	167	13.4%
200万円以上～300万円未満	109	4.4%	59	4.7%	50	4.0%
300万円以上～400万円未満	51	2.0%	38	3.0%	13	1.0%
400万円以上～500万円未満	9	0.4%	4	0.3%	5	0.4%
500万円以上～600万円未満	20	0.8%	9	0.7%	11	0.9%
600万円以上～800万円未満	9	0.4%	6	0.5%	3	0.2%
800万円以上～1000万円未満	8	0.3%	5	0.4%	3	0.2%
1000万円以上～1500万円未満	8	0.3%	5	0.4%	3	0.2%
1500万円以上	19	0.8%	14	1.1%	5	0.4%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.11 年金・社会保険の加入状況

男女共に厚生年金に加入している人が最も多く、男性の44.2%、女性の45.3%が厚生年金に加入している。一方、男性は女性と比べて企業年金加入者の割合が高い。

健康保険の加入状況については、男女共に国民健康保険の加入者が最も多く、どちらも3割強を占める。その他の民間会社等の保険加入状況については、男女共に生命保険・簡易保険への加入が最も多く、男性38.5%、女性42%である。

図表 39 年金・社会保険の加入状況（40～64 歳）

	全体・加入者		男性・加入者		女性・加入者	
	人数	%	人数	%	人数	%
国民年金	859	34.4%	414	33.1%	445	35.6%
厚生年金	1119	44.8%	553	44.2%	566	45.3%
企業年金	209	8.4%	126	10.1%	83	6.6%
国民年金基金	84	3.4%	45	3.6%	39	3.1%
確定拠出年金個人型（i D e C o）	137	5.5%	76	6.1%	61	4.9%
個人年金保険	352	14.1%	169	13.5%	183	14.6%
国民健康保険	856	34.2%	407	32.6%	449	35.9%
健康保険・共済組合（本人）	766	30.6%	363	29.0%	403	32.2%
健康保険・共済組合（被扶養者）	53	2.1%	26	2.1%	27	2.2%
国民健康保険を滞納中	6	0.2%	4	0.3%	2	0.2%
雇用保険	404	16.2%	172	13.8%	232	18.6%
生命保険・簡易保険	1006	40.2%	481	38.5%	525	42.0%
火災保険	627	25.1%	330	26.4%	297	23.8%
地震保険	363	14.5%	195	15.6%	168	13.4%
N I S A・つみたてN I S A	238	9.5%	132	10.6%	106	8.5%
財形貯蓄	121	4.8%	61	4.9%	60	4.8%
該当するものはない	286	11.4%	168	13.4%	118	9.4%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.12 年金・社会保険の受給状況

60 歳台前半層のうち厚生年金を受給している人の割合は高く、男性 53.9%、女性 68.4% を占める。

図表 40 年金・社会保険の受給状況（60～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
国民年金	33	21.3%	18	23.7%	15	19.0%
厚生年金	95	61.3%	41	53.9%	54	68.4%
企業年金	53	34.2%	30	39.5%	23	29.1%
国民年金基金	6	3.9%	3	3.9%	3	3.8%
確定拠出年金個人型（i D e C o）	2	1.3%	1	1.3%	1	1.3%
個人年金保険	43	27.7%	20	26.3%	23	29.1%
回答者	155		76		79	

注）「該当するものはない」と回答した者を除く。

2.13 世帯の生活費（月額）

「10 万円未満」が最も多く、全体で 26.8%である。ついで、「10 万円以上～15 万円未満」「15 万円以上～20 万円未満」と続く。世帯の生活費は男女間で大きな差異が無い。

図表 41 世帯の生活費月額（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
10万円未満	671	26.8%	335	26.8%	336	26.9%
10万円以上～15万円未満	621	24.8%	323	25.8%	298	23.8%
15万円以上～20万円未満	328	13.1%	175	14.0%	153	12.2%
20万円以上～25万円未満	147	5.9%	78	6.2%	69	5.5%
25万円以上～30万円未満	82	3.3%	40	3.2%	42	3.4%
30万円以上～35万円未満	39	1.6%	21	1.7%	18	1.4%
35万円以上～40万円未満	16	0.6%	10	0.8%	6	0.5%
40万円以上～45万円未満	3	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
45万円以上～50万円未満	5	0.2%	4	0.3%	1	0.1%
50万円以上	19	0.8%	13	1.0%	6	0.5%
わからない	569	22.8%	250	20.0%	319	25.5%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.14 住宅ローン残高と毎月の返済額

住宅ローン残高は、ほとんどの人が 0 円である。

図表 42 住宅ローン残高（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0円	2352	94.1%	1178	94.2%	1174	93.9%
500万円未満	18	0.7%	8	0.6%	10	0.8%
500～1000万円未満	25	1.0%	13	1.0%	12	1.0%
1000～1500万円未満	26	1.0%	12	1.0%	14	1.1%
1500～2000万円未満	23	0.9%	8	0.6%	15	1.2%
2000～2500万円未満	18	0.7%	13	1.0%	5	0.4%
2500～3000万円未満	5	0.2%	2	0.2%	3	0.2%
3000～3500万円未満	6	0.2%	3	0.2%	3	0.2%
3500～4000万円未満	3	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
4000万円以上	24	1.0%	12	1.0%	12	1.0%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

図表 43 毎月の住宅ローン返済額（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0円	2352	94.1%	1178	89.9%	1174	93.9%
10万円未満	8	0.3%	5	0.2%	3	0.2%
10～20万円未満	7	0.3%	3	2.3%	4	0.3%
20～30万円未満	5	0.2%	2	0.9%	3	0.2%
30-50万円未満	26	1.0%	12	2.8%	14	1.1%
50-100万円未満	72	2.9%	34	2.6%	38	3.0%
100万円以上	30	1.2%	16	1.3%	14	1.1%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.15 住宅ローン以外のローン残高と毎月の返済額

住宅ローンと同様に、回答者全体の 9 割以上が住宅ローン以外のローン残高を有していない。住宅ローン以外のローン残高がある場合、その平均残高は男性 33.8 万円、女性 16.7 万円、毎月の返済額の平均値は、男性 5.8 万円、女性 2.7 万円である。

図表 44 住宅ローン以外のローン残高（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0円	2311	92.4%	1124	89.9%	1187	95.0%
10万円未満	14	0.6%	6	0.5%	8	0.6%
10～50万円未満	30	1.2%	19	1.5%	11	0.9%
50～99万円未満	31	1.2%	18	1.4%	13	1.0%
100～200万円未満	41	1.6%	34	2.7%	7	0.6%
200～500万円未満	43	1.7%	28	2.2%	15	1.2%
500万円以上	30	1.2%	21	1.7%	9	0.7%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
平均値（万円）	25.3		33.8		16.7	

図表 45 毎月の返済額（住宅ローン以外）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0円	2311	92.4%	1124	89.9%	1187	95.0%
10万円未満	12	0.5%	3	0.2%	9	0.7%
10～20万円未満	43	1.7%	29	2.3%	14	1.1%
20～30万円未満	19	0.8%	11	0.9%	8	0.6%
30-50万円未満	41	1.6%	35	2.8%	6	0.5%
50-100万円未満	48	1.9%	32	2.6%	16	1.3%
100万円以上	26	1.0%	16	1.3%	10	0.8%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
平均値（万円）	4.3		5.8		2.7	

2.16 資産形成の手段

現在、資産形成のために利用している手段は男女共に「預貯金」が一番多い。また、男女を問わず、3人に1人は資産形成をしていない。

男性は、女性と比較して「株式・REIT」「投資信託・ETF」を利用している割合が高い。その一方、国債・社債等の利用については男女の差が小さい。

図表 46 現在、資産形成のために利用しているもの（複数回答可）（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
預貯金	1548	61.9%	762	61.0%	786	62.9%
株式・REIT	420	16.8%	282	22.6%	138	11.0%
国債・社債等	137	5.5%	73	5.8%	64	5.1%
投資信託・ETF	366	14.6%	208	16.6%	158	12.6%
外貨預金	164	6.6%	82	6.6%	82	6.6%
その他	68	2.7%	46	3.7%	22	1.8%
何もしていない	821	32.8%	403	32.2%	418	33.4%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

2.17 現在保有している金融資産額

40～64 歳層全体をみると、金融資産額 500 万円未満の人が男女とも 45%前後を占め、最も多い。そのうち、保有している金融資産がないという回答は男性 12.6%、女性 16.1%であった。

図表 47 現在保有している金融資産額（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	241	14.4%	107	12.6%	134	16.1%
100万円未満	213	12.7%	113	13.3%	100	12.0%
100～500万円未満	392	23.3%	184	21.7%	208	25.0%
500～1000万円未満	253	15.1%	115	13.6%	138	16.6%
1000～1500万円未満	169	10.1%	79	9.3%	90	10.8%
1500～2000万円未満	69	4.1%	42	5.0%	27	3.2%
2000～3000万円未満	116	6.9%	59	7.0%	57	6.9%
3000～4000万円未満	76	4.5%	43	5.1%	33	4.0%
4000～5000万円未満	31	1.8%	17	2.0%	14	1.7%
5000～1億円未満	76	4.5%	55	6.5%	21	2.5%
1億円以上	43	2.6%	33	3.9%	10	1.2%
回答者	1679	100.0%	847	100.0%	832	100.0%

一方、60歳台前半層のみに調査対象者を限定すると、保有している金融資産額がゼロの人は男性10%弱、女性19%となっていた。その金額が500万円未満（ゼロを含む）の人は、男女とも40%弱を占めており、最多であった。他方、2000万円以上の人は男女とも34%となっていた。

図表 48 現在保有している金融資産額（60～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし	30	14.2%	11	9.8%	19	19.0%
100万円未満	14	6.6%	11	9.8%	3	3.0%
100～500万円未満	38	17.9%	21	18.8%	17	17.0%
500～1000万円未満	25	11.8%	12	10.7%	13	13.0%
1000～1500万円未満	23	10.8%	12	10.7%	11	11.0%
1500～2000万円未満	10	4.7%	7	6.3%	3	3.0%
2000～3000万円未満	20	9.4%	5	4.5%	15	15.0%
3000～4000万円未満	12	5.7%	5	4.5%	7	7.0%
4000～5000万円未満	7	3.3%	4	3.6%	3	3.0%
5000～1億円未満	25	11.8%	18	16.1%	7	7.0%
1億円以上	8	3.8%	6	5.4%	2	2.0%
回答者	212	100.0%	112	100.0%	100	100.0%

3. 住まいについて

3.1 あなたの現在の住まい

全体では「親の持ち家」という回答が最も多く、37.6%を占める。次いで、「賃貸住宅（民間・公団・公社）」「自分の持ち家」が続く。男性の場合、女性と比較して自分の持ち家に住んでいる割合が8ポイント高い。

図表 49 あなたの現在の住まい（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分の持ち家	595	23.8%	350	28.0%	245	19.6%
親の持ち家	939	37.6%	441	35.3%	498	39.8%
その他親族の持ち家	54	2.2%	20	1.6%	34	2.7%
親族以外（友人など）の持ち家	3	0.1%	0	0.0%	3	0.2%
賃貸住宅（民間・公団・公社）	826	33.0%	392	31.4%	434	34.7%
社宅	15	0.6%	12	1.0%	3	0.2%
公営住宅・公的施設	62	2.5%	34	2.7%	28	2.2%
その他	6	0.2%	1	0.1%	5	0.4%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

3.2 （現在の住まいが持ち家以外の場合）現在の家賃

図表 38 は、現在の住まいが持ち家以外の人が支払っている家賃（月額）の分布である。男女ともに最も回答が多いのは「4 万円以上～6 万円未満」であり、次に多いのは「6 万円以上～8 万円未満」である。男性と比べて女性は高い月額にも分布が広がっており、12 万円以上の割合は男性のそのの 2 倍に近い。

図表 50 現在の家賃月額（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
0円	35	3.9%	20	4.6%	15	3.2%
2万円未満	36	4.0%	25	5.7%	11	2.4%
2～4万円未満	134	14.8%	75	17.1%	59	12.7%
4～6万円未満	350	38.8%	164	37.4%	186	40.0%
6～8万円未満	215	23.8%	94	21.5%	121	26.0%
8～10万円未満	68	7.5%	32	7.3%	36	7.7%
10～12万円未満	38	4.2%	19	4.3%	19	4.1%
12万円以上	27	3.0%	9	2.1%	18	3.9%
回答者	903	100.0%	438	100.0%	465	100.0%
平均値（万円）	10		5.2		14.5	
平均値・12万円以上以外の回答者（万円）	5.1		5		5.4	

3.3 老後の住まいについて

老後の住まいについては、全体の 47.5%が「将来も現在の住まいにそのまま住み続ける」と回答している。

図表 51 老後の住まいをどのようにするか（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
A：現在の住まいにそのまま住み続ける	1187	47.5%	636	50.9%	551	44.1%
B：将来、持ち家を自分で購入するつもりである	157	6.3%	102	8.2%	55	4.4%
C：親族から持ち家を相続する見込みである	93	3.7%	40	3.2%	53	4.2%
D：親族の家に同居するつもりである	26	1.0%	10	0.8%	16	1.3%
E：将来、恋人あるいは結婚して配偶者の家に同居するつもりである	35	1.4%	2	0.2%	33	2.6%
F：周囲の人と助け合いながら暮らす、シェアハウスやコレクティブハウスに移り住むつもりである	7	0.3%	1	0.1%	6	0.5%
G：有料老人ホーム（自立型）やサービス付き高齢者向け住宅など支援の得られやすいところで暮らすつもりである	62	2.5%	17	1.4%	45	3.6%
H：賃貸住宅に移り住むつもりである（選択肢F、Gを除く通常の物件）	158	6.3%	72	5.8%	86	6.9%
I：その他	6	0.2%	4	0.3%	2	0.2%
J：わからない	769	30.8%	366	29.3%	403	32.2%
回答者数	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

3.4 老後を一緒に暮らす人

老後を「1人で暮らすつもり」と回答した人は全体の40.7%である。「親と暮らすつもりである」という回答も少なくない。また、女性は男性と比べて「親と暮らすつもりである」「兄弟姉妹と暮らすつもりである」の回答割合が若干ながら高い。

図表 52 老後は誰と暮らすか（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
A：1人で暮らすつもりである（下記の選択肢Hなどは除く）	1017	40.7%	535	42.8%	482	38.6%
B：親と暮らすつもりである	375	15.0%	183	14.6%	192	15.4%
C：兄弟姉妹と暮らすつもりである	135	5.4%	40	3.2%	95	7.6%
D：将来、恋人あるいは結婚して配偶者と暮らすつもりである	118	4.7%	66	5.3%	52	4.2%
E：将来、子ども（養子を含む）と暮らすつもりである	12	0.5%	4	0.3%	8	0.6%
F：その他親族（甥や姪など）と暮らすつもりである	2	0.1%	0	0.0%	2	0.2%
G：友人と暮らすつもりである	11	0.4%	6	0.5%	5	0.4%
H：一緒に暮らす人がいないので、共有スペースのある施設や賃貸住宅で様々な人と生活の一部を共有しながら暮らすつもりである	45	1.8%	16	1.3%	29	2.3%
I：その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
J：わからない	785	31.4%	400	32.0%	385	30.8%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

4. 不安・満足度等

4.1 現在の健康状態

最も回答が多いのは、男女ともに「まあ健康」である。全体で44.2%、男性で41%、女性で47.4%を占める。また、「注意する点があり、日常生活に支障がある」「病気がち、療養中」のいずれかを選択した回答者は男女を問わず12%前後であり、8割以上の人は日常生活に支障がない。

図表 53 現在の健康状態（40～64 歳）

		非常に健康	まあ健康	注意する点		病気がち、療養中	回答者数
				はあるが、日常生活に支障はない	があり、日常生活に支障がある		
全体	人数	322	1106	765	131	176	2500
	%	12.9%	44.2%	30.6%	5.2%	7.0%	100.0%
男性	人数	167	513	409	68	93	1250
	%	13.4%	41.0%	32.7%	5.4%	7.4%	100.0%
女性	人数	155	593	356	63	83	1250
	%	12.4%	47.4%	28.5%	5.0%	6.6%	100.0%

4.2 現在、いざというときに援助してくれる人

図表 53、54、55 は、それぞれ現時点で経済援助をしてくれる人、家事や看護をしてくれる人、悩みを聞いてくれる人、がそれぞれ誰かに関する回答である。全体として、男性の方が女性よりも「特にない」と回答する割合が高い。

経済援助をしてくれる人について、男性の 60.1%、女性の 40.9%が「特にいない」と回答している。経済援助をしてくれる人がいる場合、男女を問わずほとんどの人が父親や母親に頼ると回答した。

看護や家事を手伝ってくれる人について、男性の 61.4%、女性の 43.7%が「特にいない」と回答している。看護や家事を手伝ってくれる人が居る場合、男女を問わずほとんどの人が母親に頼ると回答した。

悩みを聞いてくれる人については、男性の 64.8%、女性の 39.2%が「特にいない」と回答した。悩みを聞いてくれる人がいる場合、母親や友人の占める割合が高い。特に、女性は男性と比べ、友人と回答する割合が高い。

図表 54 現在、経済援助をしてくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
父親	471	18.8%	200	16.0%	271	21.7%
母親	497	19.9%	199	15.9%	298	23.8%
兄弟姉妹	198	7.9%	67	5.4%	131	10.5%
恋人	15	0.6%	5	0.4%	10	0.8%
その他親族	19	0.8%	8	0.6%	11	0.9%
友人	26	1.0%	11	0.9%	15	1.2%
職場の同僚	4	0.2%	2	0.2%	2	0.2%
地域・近隣の人	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
その他	3	0.1%	2	0.2%	1	0.1%
特にいない	1266	50.6%	755	60.4%	511	40.9%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

図表 55 現在、家事や看護をしてくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
父親	112	4.5%	51	4.1%	61	4.9%
母親	721	28.8%	306	24.5%	415	33.2%
兄弟姉妹	245	9.8%	78	6.2%	167	13.4%
恋人	34	1.4%	18	1.4%	16	1.3%
その他親族	18	0.7%	8	0.6%	10	0.8%
友人	44	1.8%	13	1.0%	31	2.5%
職場の同僚	2	0.1%	2	0.2%	0	0.0%
地域・近隣の人	4	0.2%	3	0.2%	1	0.1%
その他	6	0.2%	3	0.2%	3	0.2%
特にいない	1314	52.6%	768	61.4%	546	43.7%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

図表 56 現在、悩みを聞いてくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
父親	74	3.0%	45	3.6%	29	2.3%
母親	371	14.8%	146	11.7%	225	18.0%
兄弟姉妹	223	8.9%	76	6.1%	147	11.8%
恋人	62	2.5%	22	1.8%	40	3.2%
その他親族	16	0.6%	9	0.7%	7	0.6%
友人	405	16.2%	119	9.5%	286	22.9%
職場の同僚	30	1.2%	16	1.3%	14	1.1%
地域・近隣の人	6	0.2%	2	0.2%	4	0.3%
その他	13	0.5%	5	0.4%	8	0.6%
特にいない	1300	52.0%	810	64.8%	490	39.2%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

4.3 老後、いざというときに援助してくれる人

それでは老後はどうか。図表 57、58、59 は、それぞれ老後に経済援助をしてくれる人、家事や看護をしてくれる人、悩みを聞いてくれる人の回答分布である。4.2 項と同様に、いずれの場合も男性の方が女性より「特にいない」と回答した割合が高い。また、現在と比較すると、男女ともに「特にいない」という回答割合がいずれにおいても増加した。老後は、両親がいなくなることが、その背景にある。

老後、いざというときに経済援助してくれる人について、男性は 86.2%、女性は 75.5% が「特にいない」と回答している。経済援助をしてくれる人がいる場合、男女ともに「兄弟姉妹」と回答した割合が突出している。

老後、家事や看護をしてくれる人について、男性は 84.7%、女性は 73.3% が「特にいない」と回答している。経済援助と同様に、家事や看護を手伝ってくれる人がいる場合、男女ともに大半が「兄弟姉妹」と回答した。

老後、悩みを聞いてくれる人について、男性は 79.5%、女性は 56.9% が「特にいない」と回答している。悩みを聞いてくれる人がいる場合、男性では「兄弟姉妹」、次いで「友人」という回答が多い。一方、女性の場合、その順序が逆になっている。

図表 57 老後、経済援助をしてくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
兄弟姉妹	369	14.8%	132	10.6%	237	19.0%
恋人（老後については、配偶者も含む）	52	2.1%	22	1.8%	30	2.4%
その他親族	25	1.0%	7	0.6%	18	1.4%
友人	23	0.9%	8	0.6%	15	1.2%
職場の同僚	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
地域・近隣の人	3	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
その他	5	0.2%	1	0.1%	4	0.3%
特にいない	2022	80.9%	1078	86.2%	944	75.5%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

図表 58 老後、家事や看護を手伝ってくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
兄弟姉妹	383	15.3%	140	11.2%	243	19.4%
恋人（老後については、配偶者も含む）	63	2.5%	27	2.2%	36	2.9%
その他親族	30	1.2%	10	0.8%	20	1.6%
友人	35	1.4%	10	0.8%	25	2.0%
職場の同僚	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
地域・近隣の人	6	0.2%	2	0.2%	4	0.3%
その他	7	0.3%	1	0.1%	6	0.5%
特にいない	1975	79.0%	1059	84.7%	916	73.3%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

図表 59 老後、悩みを聞いてくれる人（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
兄弟姉妹	312	12.5%	115	9.2%	197	15.8%
恋人（老後については、配偶者も含む）	71	2.8%	31	2.5%	40	3.2%
その他親族	20	0.8%	7	0.6%	13	1.0%
友人	363	14.5%	93	7.4%	270	21.6%
職場の同僚	12	0.5%	3	0.2%	9	0.7%
地域・近隣の人	4	0.2%	2	0.2%	2	0.2%
その他	13	0.5%	5	0.4%	8	0.6%
特にいない	1705	68.2%	994	79.5%	711	56.9%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

4.4 現在の生活の満足度

図表 60 は現在の生活の満足度について、図表 61 は現在の仕事の満足度についての調査結果である。現在の生活の満足度については、男女を問わず、特に「収入」「資産・貯蓄」の満足度が低い。その一方、「家族」「友人」に関しては満足度が比較的高い。特に、「友人」について「非常に満足」あるいは「まあ満足」と回答した割合は男性で 58.4%、女性で 70.9% である。女性は男性と比べて、「友人」についての満足度が高い。

現在の仕事に関する満足度については、「仕事の内容」「職場の人間関係」「休暇・労働時間」「福利厚生・社会保険」のいずれも過半数の回答者が「非常に満足」もしくは「まあ満足」と回答している。

図表 60 現在の生活の満足度（40～64 歳）

		今の生活全般		収入		資産・貯蓄		趣味やスポーツ活動	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	あてはまらない	-	-	55	2.2%	113	4.5%	179	7.2%
	非常に満足	151	6.0%	105	4.2%	91	3.6%	185	7.4%
	まあ満足	1267	50.7%	829	33.2%	836	33.4%	1306	52.2%
	やや不満	662	26.5%	917	36.7%	865	34.6%	579	23.2%
	非常に不満	420	16.8%	594	23.8%	595	23.8%	251	10.0%
	回答者	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%
男性	あてはまらない	-	-	23	1.8%	55	4.4%	70	5.6%
	非常に満足	69	5.5%	59	4.7%	55	4.4%	96	7.7%
	まあ満足	607	48.6%	410	32.8%	412	33.0%	654	52.3%
	やや不満	339	27.1%	439	35.1%	414	33.1%	283	22.6%
	非常に不満	235	18.8%	319	25.5%	314	25.1%	147	11.8%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%
女性	あてはまらない	-	-	32	2.6%	58	4.6%	109	8.7%
	非常に満足	82	6.6%	46	3.7%	36	2.9%	89	7.1%
	まあ満足	660	52.8%	419	33.5%	424	33.9%	652	52.2%
	やや不満	323	25.8%	478	38.2%	451	36.1%	296	23.7%
	非常に不満	185	14.8%	275	22.0%	281	22.5%	104	8.3%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

		家族		恋人		友人		地域・近隣の人	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	あてはまらない	190	7.6%	653	26.1%	257	10.3%	336	13.4%
	非常に満足	305	12.2%	100	4.0%	255	10.2%	108	4.3%
	まあ満足	1329	53.2%	817	32.7%	1361	54.4%	1303	52.1%
	やや不満	426	17.0%	482	19.3%	375	15.0%	483	19.3%
	非常に不満	250	10.0%	448	17.9%	252	10.1%	270	10.8%
	回答者	2500	100.0%	2500	100.0%	2500	100.0%	2500	100.0%
男性	あてはまらない	95	7.6%	257	20.6%	129	10.3%	149	11.9%
	非常に満足	127	10.2%	48	3.8%	97	7.8%	52	4.2%
	まあ満足	662	53.0%	377	30.2%	632	50.6%	632	50.6%
	やや不満	220	17.6%	277	22.2%	222	17.8%	259	20.7%
	非常に不満	146	11.7%	291	23.3%	170	13.6%	158	12.6%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%
女性	あてはまらない	95	7.6%	396	31.7%	128	10.2%	187	15.0%
	非常に満足	178	14.2%	52	4.2%	158	12.6%	56	4.5%
	まあ満足	667	53.4%	440	35.2%	729	58.3%	671	53.7%
	やや不満	206	16.5%	205	16.4%	153	12.2%	224	17.9%
	非常に不満	104	8.3%	157	12.6%	82	6.6%	112	9.0%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

図表 61 現在の仕事の満足度（現在、仕事をしている人のみ）（40～64 歳）

		仕事の内容		職場の人間関係		休暇・労働時間		福利厚生・社会保険	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	あてはまらない	-	-	-	-	-	-	-	-
	非常に満足	101	5.2%	139	7.1%	199	10.1%	119	6.1%
	まあ満足	1051	53.6%	1123	57.3%	1153	58.8%	1080	55.1%
	やや不満	545	27.8%	464	23.7%	428	21.8%	527	26.9%
	非常に不満	264	13.5%	235	12.0%	181	9.2%	235	12.0%
	回答者	1961	100%	1961	100%	1961	100%	1961	100%
男性	あてはまらない	-	-	-	-	-	-	-	-
	非常に満足	51	5.2%	69	7.0%	80	8.1%	62	6.3%
	まあ満足	517	52.5%	550	55.9%	582	59.1%	533	54.2%
	やや不満	271	27.5%	240	24.4%	220	22.4%	266	27.0%
	非常に不満	145	14.7%	125	12.7%	102	10.4%	123	12.5%
	回答者	984	100%	984	100%	984	100%	984	100%
女性	あてはまらない	-	-	-	-	-	-	-	-
	非常に満足	50	5.1%	70	7.2%	119	12.2%	57	5.8%
	まあ満足	534	54.7%	573	58.6%	571	58.4%	547	56.0%
	やや不満	274	28.0%	224	22.9%	208	21.3%	261	26.7%
	非常に不満	119	12.2%	110	11.3%	79	8.1%	112	11.5%
	回答者	977	100%	977	100%	977	100%	977	100%

4.5 今の生活において不安に感じること

男女共に 7 割以上の回答者が「今の生活全般」「ご自身の健康のこと」「先行きに対する漠然とした不安」に対して「大変不安に感じる」あるいは「少し不安に感じる」と回答している。

男女別にみると、「生活費のこと」「家族の健康のこと」「雇用が不安定なこと」「先行きに対する漠然と不安感」の各項目において、「大変不安に感じる」あるいは「少し不安に感じる」と回答した女性の割合は、男性の回答割合よりも 5 ポイント以上高い。一方、男性は「恋人がいないこと」に「大変不安を感じる」あるいは「少し不安に感じる」と回答した割合が女性と比べて 5 ポイント以上高い。

図表 62 今の生活において不安を感じること（40～64 歳）

		今の生活全般		ご自身の健康のこと		生活費のこと		安心して住める住宅がないこと		家族の健康のこと		面倒をみてくれる人がいないこと	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	大変不安に感じる	679	27.2%	618	24.7%	780	31.2%	440	17.6%	611	24.4%	636	25.4%
	少し不安に感じる	1132	45.3%	1221	48.8%	1022	40.9%	830	33.2%	1149	46.0%	1100	44.0%
	あまり不安でない	592	23.7%	566	22.6%	579	23.2%	920	36.8%	543	21.7%	637	25.5%
	まったく不安を感じない	97	3.9%	95	3.8%	119	4.8%	310	12.4%	197	7.9%	127	5.1%
	回答者	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%
男性	大変不安に感じる	324	25.9%	302	24.2%	367	29.4%	202	16.2%	269	21.5%	309	24.7%
	少し不安に感じる	577	46.2%	603	48.2%	502	40.2%	432	34.6%	560	44.8%	534	42.7%
	あまり不安でない	285	22.8%	286	22.9%	300	24.0%	443	35.4%	300	24.0%	330	26.4%
	まったく不安を感じない	64	5.1%	59	4.7%	81	6.5%	173	13.8%	121	9.7%	77	6.2%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%
女性	大変不安に感じる	355	28.4%	316	25.3%	413	33.0%	238	19.0%	342	27.4%	327	26.2%
	少し不安に感じる	555	44.4%	618	49.4%	520	41.6%	398	31.8%	589	47.1%	566	45.3%
	あまり不安でない	307	24.6%	280	22.4%	279	22.3%	477	38.2%	243	19.4%	307	24.6%
	まったく不安を感じない	33	2.6%	36	2.9%	38	3.0%	137	11.0%	76	6.1%	50	4.0%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

		適当な話し相手がないこと		恋人がいないこと		適当な趣味がないこと		雇用が不安定なこと		先行きに対する漠然とした不安感	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	大変不安に感じる	401	16.0%	435	17.4%	268	10.7%	521	20.8%	754	30.2%
	少し不安に感じる	815	32.6%	683	27.3%	582	23.3%	876	35.0%	1129	45.2%
	あまり不安でない	1000	40.0%	855	34.2%	1057	42.3%	816	32.6%	508	20.3%
	まったく不安を感じない	284	11.4%	527	21.1%	593	23.7%	287	11.5%	109	4.4%
	回答者	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%
男性	大変不安に感じる	214	17.1%	262	21.0%	148	11.8%	235	18.8%	339	27.1%
	少し不安に感じる	412	33.0%	390	31.2%	289	23.1%	428	34.2%	566	45.3%
	あまり不安でない	477	38.2%	384	30.7%	511	40.9%	418	33.4%	271	21.7%
	まったく不安を感じない	147	11.8%	214	17.1%	302	24.2%	169	13.5%	74	5.9%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%
女性	大変不安に感じる	187	15.0%	173	13.8%	120	9.6%	286	22.9%	415	33.2%
	少し不安に感じる	403	32.2%	293	23.4%	293	23.4%	448	35.8%	563	45.0%
	あまり不安でない	523	41.8%	471	37.7%	546	43.7%	398	31.8%	237	19.0%
	まったく不安を感じない	137	11.0%	313	25.0%	291	23.3%	118	9.4%	35	2.8%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

4.6 老後の生活に不安を感じること

老後はどうか。老後の生活に対する不安については、「老後の生活全般」「ご自身の健康のこと」に対して「大変不安」あるいは「少し不安を感じる」の回答割合が男女とも高い。

「家族に先立たれること」に対して「大変不安を感じる」もしくは「少し不安を感じる」と回答した女性の割合が男性のそれよりも高く、その差は12ポイントである。男性は、女性と比べて「恋人がいないこと」を不安を感じる割合が相対的に高い。この傾向は現在における不安と変わりがない。

図表 63 老後の生活に不安を感じること（40～64 歳）

		老後の生活全般		ご自身の健康のこと		生活費のこと		安心して住める住宅がないこと		家族に先立たれること		面倒をみてくれる人がいないこと	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	大変不安を感じる	919	36.8%	753	30.1%	880	35.2%	549	22.0%	686	27.4%	737	29.5%
	少し不安を感じる	1115	44.6%	1223	48.9%	1033	41.3%	859	34.4%	975	39.0%	1087	43.5%
	あまり不安でない	386	15.4%	445	17.8%	491	19.6%	830	33.2%	565	22.6%	530	21.2%
	まったく不安を感じない	80	3.2%	79	3.2%	96	3.8%	262	10.5%	274	11.0%	146	5.8%
	回答者	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%
男性	大変不安を感じる	403	32.2%	344	27.5%	392	31.4%	237	19.0%	288	23.0%	337	27.0%
	少し不安を感じる	570	45.6%	610	48.8%	518	41.4%	447	35.8%	467	37.4%	540	43.2%
	あまり不安でない	218	17.4%	247	19.8%	270	21.6%	416	33.3%	319	25.5%	281	22.5%
	まったく不安を感じない	59	4.7%	49	3.9%	70	5.6%	150	12.0%	176	14.1%	92	7.4%
	回答者	1250	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
女性	大変不安を感じる	516	41.3%	409	32.7%	488	39.0%	312	25.0%	398	31.8%	400	32.0%
	少し不安を感じる	545	43.6%	613	49.0%	515	41.2%	412	33.0%	508	40.6%	547	43.8%
	あまり不安でない	168	13.4%	198	15.8%	221	17.7%	414	33.1%	246	19.7%	249	19.9%
	まったく不安を感じない	21	1.7%	30	2.4%	26	2.1%	112	9.0%	98	7.8%	54	4.3%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

		適当な話し相手がないこと		恋人がいないこと		最期を看取ってくれ る人がいないこと		ご自身の葬儀やお墓 のこと		適当な趣味がないこと		雇用が不安定なこと	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	大変不安を感じる	475	19.0%	465	18.6%	641	25.6%	594	23.8%	306	12.2%	567	22.7%
	少し不安を感じる	856	34.2%	693	27.7%	921	36.8%	944	37.8%	633	25.3%	922	36.9%
	あまり不安でない	878	35.1%	817	32.7%	679	27.2%	703	28.1%	1029	41.2%	756	30.2%
	まったく不安を感じない	291	11.6%	525	21.0%	259	10.4%	259	10.4%	532	21.3%	255	10.2%
	回答者	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%	2500	100%
男性	大変不安を感じる	241	19.3%	276	22.1%	311	24.9%	290	23.2%	159	12.7%	252	20.2%
	少し不安を感じる	430	34.4%	383	30.6%	443	35.4%	457	36.6%	315	25.2%	457	36.6%
	あまり不安でない	420	33.6%	379	30.3%	352	28.2%	356	28.5%	501	40.1%	387	31.0%
	まったく不安を感じない	159	12.7%	212	17.0%	144	11.5%	147	11.8%	275	22.0%	154	12.3%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%
女性	大変不安を感じる	234	18.7%	189	15.1%	330	26.4%	304	24.3%	147	11.8%	315	25.2%
	少し不安を感じる	426	34.1%	310	24.8%	478	38.2%	487	39.0%	318	25.4%	465	37.2%
	あまり不安でない	458	36.6%	438	35.0%	327	26.2%	347	27.8%	528	42.2%	369	29.5%
	まったく不安を感じない	132	10.6%	313	25.0%	115	9.2%	112	9.0%	257	20.6%	101	8.1%
	回答者	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%	1250	100%

4.7 現在の異性との交際

男女ともに最も回答が多いのは「交際相手も異性の友人もない」であり、次いで「交際相手はいないが異性の友人はいる」が続く。男女ともに、異性と交際している回答者は1割前後である。

図表 64 現在、異性と交際しているか（40～64 歳）

		結婚を前提 に交際をし ている	結婚を前提 とせず恋人 として交際 している	交際相手はい ないが異性の 友人はいる	交際相手も 異性の友人 もない	答えたくな い	回答者
全体	人数 %	64 2.6%	195 7.8%	521 20.8%	1313 52.5%	407 16.3%	2500 100%
男性	人数 %	22 1.8%	70 5.6%	256 20.5%	702 56.2%	200 16.0%	1250 100%
女性	人数 %	42 3.4%	125 10.0%	265 21.2%	611 48.9%	207 16.6%	1250 100%

4.8 今後の結婚意向

全体サンプルの約 60%が結婚するつもりはないと答えている。「適当な人がいたら結婚したい」と回答した男性の割合は、女性と比べて 8.6 ポイント高い。一方、「結婚するつもりはない」と回答した割合は、女性の方が 7.5 ポイント高い。

図表 65 今後の結婚意向（40～64 歳）

		すでに結婚 相手が決 まっている	適当な人が いたら結婚 したい	結婚するつも りはない	回答者
全体	人数 %	43 1.7%	1002 40.1%	1455 58.2%	2500 100%
男性	人数 %	14 1.1%	555 44.4%	681 54.5%	1250 100%
女性	人数 %	29 2.3%	447 35.8%	774 61.9%	1250 100%

4.9 過去あるいは現在の介護が必要な方の有無

この間、介護が必要な方がいなかった人が回答者の約 80%を占めた。介護が必要な方がいた場合、その人数は、ほとんどの回答者が 1 人である。男女ともに、「母親」の介護経験が最も多く、次いで「父親」が続く。

図表 66 過去、あるいは現在、介護が必要な方がいたか（40～64 歳）

			いない	父親	母親	兄	弟	姉	妹	祖父	祖母	その他	介護経験ありの回答者	回答者全体
全体	もっとも最近	人数 %	1949 78.0%	182 7.3%	272 10.9%	6 0.2%	6 0.2%	5 0.2%	11 0.4%	8 0.3%	55 2.2%	6 0.2%	551 22.0%	2500 100%
	2番目に最近	人数 %	2322 92.9%	61 2.4%	60 2.4%	6 0.2%	3 0.1%	10 0.4%	6 0.2%	13 0.5%	17 0.7%	2 0.1%	178 7.1%	2500 100%
	3番目に最近	人数 %	2452 98.1%	6 0.2%	3 0.1%	6 0.2%	6 0.2%	3 0.1%	4 0.2%	4 0.2%	11 0.4%	5 0.2%	48 1.9%	2500 100%
男性	もっとも最近	人数 %	996 79.7%	86 6.9%	126 10.1%	2 0.2%	2 0.2%	4 0.3%	3 0.2%	4 0.3%	25 2.0%	2 0.2%	254 20.3%	1250 100%
	2番目に最近	人数 %	1179 94.3%	29 2.3%	27 2.2%	2 0.2%	1 0.1%	2 0.2%	2 0.2%	4 0.3%	4 0.3%	0 0.0%	71 5.7%	1250 100%
	3番目に最近	人数 %	1230 98.4%	2 0.2%	1 0.1%	1 0.1%	4 0.3%	1 0.1%	3 0.2%	3 0.2%	4 0.3%	1 0.1%	20 1.6%	1250 100%
女性	もっとも最近	人数 %	953 76.2%	96 7.7%	146 11.7%	4 0.3%	4 0.3%	1 0.1%	8 0.6%	4 0.3%	30 2.4%	4 0.3%	297 23.8%	1250 100%
	2番目に最近	人数 %	1143 91.4%	32 2.6%	33 2.6%	4 0.3%	2 0.2%	8 0.6%	4 0.3%	9 0.7%	13 1.0%	2 0.2%	107 8.6%	1250 100%
	3番目に最近	人数 %	1222 97.8%	4 0.3%	2 0.2%	5 0.4%	2 0.2%	2 0.2%	1 0.1%	1 0.1%	7 0.6%	4 0.3%	28 2.2%	1250 100%

4.10 介護が必要な方への主な介護方法

介護が必要な方がいた場合、主な対処方法として「同居家族が介護」が多く、次いで「働きながら自分で介護」が続く。また、「もっとも最近」の主な介護方法として、男女ともに13%前後の人が「仕事をやめて自分で介護」と回答している。

図表 67 介護が必要な方がいた場合、主にどのように対処をしたか（40～64 歳）

			仕事をやめて自分で介護	働きながら自分で介護	同居家族が介護	その他親族が介護	ホームヘルプサービス、訪問看護などの在宅介護を利用	公的介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設など）に入所	介護付き有料老人ホームに入所	病院入院	家政婦を雇用	その他	介護経験ありの回答者合計
全体	もっとも最近	人数 %	73 13.2%	113 20.5%	136 24.7%	26 4.7%	46 8.3%	58 10.5%	37 6.7%	43 7.8%	6 1.1%	13 2.4%	551 100%
	2番目に最近	人数 %	15 8.4%	46 25.8%	46 25.8%	12 6.7%	15 8.4%	9 5.1%	8 4.5%	16 9.0%	6 3.4%	5 2.8%	178 100%
	3番目に最近	人数 %	4 8.3%	8 16.7%	16 33.3%	5 10.4%	0 0.0%	1 2.1%	3 6.3%	4 8.3%	4 8.3%	3 6.3%	48 100%
男性	もっとも最近	人数 %	37 14.6%	53 20.9%	57 22.4%	7 2.8%	25 9.8%	29 11.4%	24 9.4%	14 5.5%	0 0.0%	8 3.1%	254 100%
	2番目に最近	人数 %	9 12.7%	17 23.9%	18 25.4%	5 7.0%	6 8.5%	3 4.2%	3 4.2%	8 11.3%	0 0.0%	2 2.8%	71 100%
	3番目に最近	人数 %	2 10.0%	3 15.0%	8 40.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	2 10.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 100%
女性	もっとも最近	人数 %	36 12.1%	60 20.2%	79 26.6%	19 6.4%	21 7.1%	29 9.8%	13 4.4%	29 9.8%	6 2.0%	5 1.7%	297 100%
	2番目に最近	人数 %	6 5.6%	29 27.1%	28 26.2%	7 6.5%	9 8.4%	6 5.6%	5 4.7%	8 7.5%	6 5.6%	3 2.8%	107 100%
	3番目に最近	人数 %	2 7.1%	5 17.9%	8 28.6%	3 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	3 10.7%	4 14.3%	2 7.1%	28 100%

4.11 親の介護が必要になった場合の主な対処法

親の介護が必要になった場合の主な対処法について、「親はいない」と回答した人を除くと、男女ともに「ホームヘルプサービス、訪問看護などの在宅介護を利用」が最も多い。また、男女ともに1割強の人が「仕事をやめて自分で介護」と回答している。

男女別にみると、女性の15%が「会社の介護休業制度を利用し自分で介護」と回答しており、その割合は男性より5ポイント高い。

図表 68 親の介護が必要になった場合の主な対処法（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
仕事をやめて自分で介護	342	13.7%	175	14.0%	167	13.4%
会社の介護休業制度などを利用し自分で介護	315	12.6%	126	10.1%	189	15.1%
同居家族が介護	274	11.0%	161	12.9%	113	9.0%
その他親族が介護	102	4.1%	56	4.5%	46	3.7%
ホームヘルプサービス、訪問看護などの在宅介護を利用	451	18.0%	197	15.8%	254	20.3%
公的介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設など）に入所	263	10.5%	114	9.1%	149	11.9%
介護付き有料老人ホームに入所	124	5.0%	71	5.7%	53	4.2%
病院に入院	123	4.9%	62	5.0%	61	4.9%
家政婦を雇用	13	0.5%	7	0.6%	6	0.5%
親はいない	402	16.1%	240	19.2%	162	13.0%
その他	91	3.6%	41	3.3%	50	4.0%
回答者数	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

5. 老後の生活について

5.1 65 歳以降の生活設計を考えた年齢

65 歳以降の生活設計については、全体の 64.8%が「まだ考えていない」と回答。男性は 68.2%、女性は 61.4%のが「まだ考えていない」と回答している。

図表 69 65 歳以降の生活設計を考えた年齢（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
まだ考えていない	1619	64.8%	852	68.2%	767	61.4%
20歳代	59	2.4%	28	2.2%	31	2.5%
30～34歳	66	2.6%	23	1.8%	43	3.4%
35～39歳	115	4.6%	51	4.1%	64	5.1%
40～44歳	197	7.9%	80	6.4%	117	9.4%
45～49歳	126	5.0%	62	5.0%	64	5.1%
50～54歳	147	5.9%	64	5.1%	83	6.6%
55～59歳	102	4.1%	55	4.4%	47	3.8%
60歳以降	69	2.8%	35	2.8%	34	2.7%
回答者全体	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

5.2 65歳以降の生活設計を考えていない理由

65歳以降の生活設計を考えていない理由としては「収入が少なく今の生活で精一杯のため」が1番多く、全体で37.6%、男性で36.2%、女性で39.2%である。

女性の場合、男性と比べて「公的年金など社会保障の仕組みがわからないため」「将来に備えたいと思うが、何をすればよいかわからないため」の回答割合が比較的高く、男性は「65歳以降の生活設計に関心がないため」という理由が相対的に多い。

図表 70 65歳以降の生活設計を考えていない理由（複数回答可）（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
公的年金など社会保障の仕組みがわからないため	280	17.3%	139	16.3%	141	18.4%
収入が少なく、今の生活で精一杯のため	609	37.6%	308	36.2%	301	39.2%
介護や仕事等が忙しく、将来のことを考える時間がないため	151	9.3%	65	7.6%	86	11.2%
長生きをしないと思うため	313	19.3%	161	18.9%	152	19.8%
家族や身の回りの人が助けてくれるため	37	2.3%	15	1.8%	22	2.9%
国や地方自治体が助けてくれると思うため	39	2.4%	24	2.8%	15	2.0%
将来に備えたいと思うが、何をすればよいかわからないため	411	25.4%	188	22.1%	223	29.1%
まだ65歳以降の生活設計に関心がないため	484	29.9%	296	34.7%	188	24.5%
その他	29	1.8%	13	1.5%	16	2.1%
老後の生活設計を考えていない回答者	1619	100.0%	852	100.0%	767	100.0%

5.3 65歳以降の生活設計の立て方

男女ともに「公的年金」「仕事による収入」「預貯金」によって生計を立てると回答した者が多い。

男女別では、女性の場合、「預貯金」と回答した割合が男性と比べ、8.6ポイント高い。一方、男性の場合、女性と比較して「利息・配当金収入」と回答した割合が7.5ポイント高い。

図表 71 65歳以降の生活設計の立て方（最大5つまで選択可）（40～64歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
仕事による収入	1009	40.4%	502	40.2%	507	40.6%
公的年金（国民年金、厚生年金）	1337	53.5%	643	51.4%	694	55.5%
企業年金（厚生年金基金、確定給付企業年金など）	368	14.7%	184	14.7%	184	14.7%
個人年金（個人年金保険、簡易保険など）	507	20.3%	249	19.9%	258	20.6%
不動産収入	71	2.8%	44	3.5%	27	2.2%
利息・配当金収入	219	8.8%	156	12.5%	63	5.0%
預貯金	943	37.7%	418	33.4%	525	42.0%
親族からの支援	44	1.8%	13	1.0%	31	2.5%
生活保護	163	6.5%	98	7.8%	65	5.2%
その他	15	0.6%	12	1.0%	3	0.2%
わからない	474	19.0%	251	20.1%	223	17.8%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

5.4 将来受け取ることができる年金見込み額（月額）

将来受け取ることができる年金見込み額（月額）については、公的年金の受給見込み月額、企業年金の受給見込み月額、私的年金の受給見込み月額を、それぞれ図表 72、73、74 に示した。公的年金については「なし・わからない」という回答が約 60%を占める。企業年金、個人年金保険については 80%以上が「なし・わからない」と回答している。金額回答がある場合、公的年金では「5～10 万円未満」「10～15 万円未満」を見込んでいる人が多い。15 万円以上貰えると考える人も約 10%存在する。

図表 72 将来受け取ることができる年金見込み月額：公的年金（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし・わからない	1511	60.4%	740	59.2%	771	61.7%
5万円未満	64	2.6%	29	2.3%	35	2.8%
5～10万円未満	402	16.1%	181	14.5%	221	17.7%
10～15万円未満	255	10.2%	130	10.4%	125	10.0%
15～20万円未満	114	4.6%	75	6.0%	39	3.1%
20～30万円未満	48	1.9%	35	2.8%	13	1.0%
30万円以上	106	4.2%	60	4.8%	46	3.7%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
平均値：全体（万円）	16.95		15.36		18.53	

図表 73 将来受け取ることができる年金見込み月額：企業年金（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし・わからない	2139	85.6%	1041	83.3%	1098	87.8%
5万円未満	136	5.4%	76	6.1%	60	4.8%
5～10万円未満	101	4.0%	57	4.6%	44	3.5%
10～15万円未満	66	2.6%	39	3.1%	27	2.2%
15～20万円未満	18	0.7%	13	1.0%	5	0.4%
20～30万円未満	11	0.4%	7	0.6%	4	0.3%
30万円以上	29	1.2%	17	1.4%	12	1.0%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
平均値：全体（万円）	2.39		3.4		1.37	

図表 74 将来受け取ることができる年金見込み月額：個人年金（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
なし・わからない	2013	80.5%	1016	81.3%	997	79.8%
5万円未満	141	5.6%	65	5.2%	76	6.1%
5～10万円未満	167	6.7%	77	6.2%	90	7.2%
10～15万円未満	91	3.6%	44	3.5%	47	3.8%
15～20万円未満	10	0.4%	7	0.6%	3	0.2%
20～30万円未満	11	0.4%	7	0.6%	4	0.3%
30万円以上	67	2.7%	34	2.7%	33	2.6%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%
平均値：全体（万円）	9.82		6.23		13.41	

5.5 公的年金の希望受給開始年齢

公的年金を受け取りたい年齢は、男女を問わず「65 歳」が一番多く、全体で 57.4%、男性で 56.2%、女性で 58.6%である。65 歳未満で受け取りたい人、66 歳以降で受け取りたい人は、それぞれ 20%前後。

図表 75 公的年金を受け取り始めたい年齢（40～64 歳）

		60～64歳	65歳	66～70歳	71～75歳	回答者
全体	人数	581	1435	388	96	2500
	%	23.2%	57.4%	15.5%	3.8%	100.0%
男性	人数	283	702	209	56	1250
	%	22.6%	56.2%	16.7%	4.5%	100.0%
女性	人数	298	733	179	40	1250
	%	23.8%	58.6%	14.3%	3.2%	100.0%

60～64 歳層に限定すると、男女とも 60～64 歳での受給希望者が若干増え、25%前後、65 歳受給開始希望者も同様に増え、男性 60%強、女性 66%となっていた。総じて 60 歳未満の人の方が 66 歳以降の受給開始を希望する人が多い。

図表 76 公的年金を受け取り始めたい年齢（60～64 歳）

		60～64歳	65歳	66～70歳	71～75歳	回答者
全体	人数	71	176	31	2	280
	%	25.4%	62.9%	11.1%	0.7%	100.0%
男性	人数	40	93	19	2	154
	%	26.0%	60.4%	12.3%	1.3%	100.0%
女性	人数	31	83	12	0	126
	%	24.6%	65.9%	9.5%	0.0%	100.0%

5.6 64 歳以下で公的年金を受け取りたい・受け取っている理由

65 歳未満で公的年金の受給を開始したい、あるいは開始した場合、その理由としては、「減額されても、早く受給する方が得だと思ったから」が全体 33%、男性 34.3%、女性 31.9%であり、次いで、「年金を繰り上げないと生活できないため」「生活の足しにしたいため」となっていた。

図表 77 64 歳以下で公的年金を受け取りたい・受け取っている理由（40～64 歳）

		年金を繰 上げない と生活で きないた め	生活の足 しにした いため	減額され ても、早 く受給す る方が得 だと思っ たから	仕事をや める（や めた）か ら	健康に不 安がある ので、早 めに受け 取りたい から	繰り上げ しなくても 64 歳 以下で受 け取るこ とができ るから	その他	特に理由 はない	回答者
全体	人数	165	161	192	78	127	39	18	138	581
	%	28.4%	27.7%	33.0%	13.4%	21.9%	6.7%	3.1%	23.8%	100%
男性	人数	77	71	97	40	54	19	12	79	283
	%	27.2%	25.1%	34.3%	14.1%	19.1%	6.7%	4.2%	27.9%	100%
女性	人数	88	90	95	38	73	20	6	59	298
	%	29.5%	30.2%	31.9%	12.8%	24.5%	6.7%	2.0%	19.8%	100%

60 歳台前半層のみに着目すると、男性の場合、「繰り上げしなくても 64 歳以下で受け取ることができるから」という回答割合が 20%となり、比較的多い。一方、女性の場合、「減額されても、早く受給する方が得だと思ったから」が 42%、「生活の足しにしたいため」が 32%を占めている。

図表 78 64 歳以下で公的年金を受け取りたい・受け取っている理由（60～64 歳）

		年金を繰 上げない と生活で きないた め	生活の足 しにした いため	減額され ても、早 く受給す る方が得 だと思っ たから	仕事をや める（や めた）か ら	健康に不 安がある ので、早 めに受け 取りたい から	繰り上げ しなくて も64歳 以下で受 け取るこ とができ るから	その他	特に理由 はない	回答者
全体	人数 %	14 19.7%	17 23.9%	24 33.8%	12 16.9%	10 14.1%	12 16.9%	5 7.0%	14 19.7%	71 100.0%
男性	人数 %	9 22.5%	7 17.5%	11 27.5%	6 15.0%	8 20.0%	8 20.0%	5 12.5%	7 17.5%	40 100.0%
女性	人数 %	5 16.1%	10 32.3%	13 41.9%	6 19.4%	2 6.5%	4 12.9%	0 0.0%	7 22.6%	31 100.0%

5.7 66 歳以降に公的年金を受け取りたい・受け取っている理由

66 歳以降に公的年金を受け取りたい理由としては、「65 歳以降も働くから」という回答割合が全体で 56.6%、男性で 55.5%、女性で 58%であり、最も回答が多い。次いで、「増額した方が得だと思ったから」が続く。

図表 79 66 歳以降で公的年金を受け取りたい・受け取っている理由（40～64 歳）

		65歳以降 も働か る	所得・資 産が十分 あるから	増額した 方が得だ と思った から	健康に自 信があり 長生きし そうだか ら	所得が多 くてしば らく年金 が受け取 れないか ら	その他	特に理由 はない	回答者
全体	人数 %	274 56.6%	33 6.8%	159 32.9%	36 7.4%	8 1.7%	8 1.7%	94 19.4%	484 100%
男性	人数 %	147 55.5%	22 8.3%	77 29.1%	18 6.8%	6 2.3%	6 2.3%	56 21.1%	265 100%
女性	人数 %	127 58.0%	11 5.0%	82 37.4%	18 8.2%	2 0.9%	2 0.9%	38 17.4%	219 100%

60～64 歳層の回答者は少ないものの、「増額した方が得だと思ったから」という人や「所得・資産が十分あるから」という人が割合増となっている。

図表 80 66 歳以降で公的年金を受け取りたい・受け取っている理由（60～64 歳）

		65歳以降 も働くか ら	所得・資 産が十分 あるから	増額した 方が得だ と思った から	健康に自 信があり 長生きし そうだから	所得が多 くてしば らく年金 が受け取 れないか ら	その他	特に理由 はない	回答者
全体	人数 %	14 42.4%	8 24.2%	16 48.5%	6 18.2%	2 6.1%	1 3.0%	4 12.1%	33 100.0%
男性	人数 %	9 42.9%	5 23.8%	9 42.9%	2 9.5%	2 9.5%	1 4.8%	3 14.3%	21 100.0%
女性	人数 %	5 41.7%	3 25.0%	7 58.3%	4 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%

5.8 自分自身の介護が必要になった場合の対処法

自分自身に介護が必要になった場合の対処法については、男女とも「自宅でホームヘルプ・訪問介護などの在宅介護・デイサービスを利用する」「公的介護施設に入所する」「病院に入院する」の順に回答割合が高い。

女性の場合、男性と比較して「公的介護施設に入所する」の回答割合がかなり高い。一方、男性の場合、女性と比べて「病院に入院する」の回答割合が若干、高い。

図表 81 自分自身の介護が必要になった場合の対処法（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
自宅でホームヘルプサービス、訪問看護などの在宅介護・デイサービスを利用する	1010	40.4%	479	38.3%	531	42.5%
将来、恋人あるいは結婚して配偶者に介護してもらう	95	3.8%	59	4.7%	36	2.9%
将来、子ども（養子を含む）に介護してもらう	20	0.8%	16	1.3%	4	0.3%
親族にお願いする	191	7.6%	90	7.2%	101	8.1%
友人にお願いする	38	1.5%	16	1.3%	22	1.8%
地域・近隣の人にお願いする	26	1.0%	16	1.3%	10	0.8%
公的介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設など）に入所する	738	29.5%	290	23.2%	448	35.8%
介護付き有料老人ホームに入所する	370	14.8%	165	13.2%	205	16.4%
病院に入院する	504	20.2%	278	22.2%	226	18.1%
その他	237	9.5%	146	11.7%	91	7.3%
回答者数	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%

6. その他の項目

6.1 独身生活を続けてきて感じたこと

独身生活を続けてどのように感じたか、については「自由に使える時間が多い」と「老後のことを考えると不安」の回答割合が高く、それぞれ全体の約 40%を占める。さらに、「結婚しなくてよかった」という回答は男女とも 20%強となっていた。

女性の場合、男性と比べて「自分のライフスタイルを維持できてよかった」「既婚者のような、家計のやりくり・家族関係等のわずらわしさが無い」「周囲に結婚のことを聞かれるのがわずらわしい」の回答割合が多少とも高い。

図表 82 現在、独身生活が続けてきてどのように感じているか（60～64 歳）

		結婚しな くてよ かった	早い時期 に結婚し ておけ ばよかった	自分のラ イフスタ イルを維 持できて よかった	働きの こと で、一定 のキャリ アを築い てこれた	既婚者の ような、 家計のや りくり・ 家族関係 等の煩わ しさがな い	親と同居 できてよ かった	独身のた め親と同居 すること になり 不満を感じ る	お金を自 由に使える	自由に使 える時間 が多い	1人では食 事や健康の 管理が難し い	性格や人 格に対する 偏見を感じ る
全体	人数 %	539 21.6%	508 20.3%	500 20.0%	141 5.6%	483 19.3%	271 10.8%	88 3.5%	704 28.2%	1005 40.2%	225 9.0%	202 8.1%
男性	人数 %	264 21.1%	263 21.0%	211 16.9%	39 3.1%	195 15.6%	94 7.5%	35 2.8%	361 28.9%	454 36.3%	150 12.0%	87 7.0%
女性	人数 %	275 22.0%	245 19.6%	289 23.1%	102 8.2%	288 23.0%	177 14.2%	53 4.2%	343 27.4%	551 44.1%	75 6.0%	115 9.2%

		社会的信 用を得に くい（賃 貸物件の 利用、住 宅ローン の審査、 その他）	周囲に結 婚のこと を聞かれ るのがわ ざらわし い	子供がほ しい（ほ しかっ た）	現在付き 合いのあ る友人の 多くが独 身者であ る	いつも残 業させら れるな ど、仕事 上で不利 がある	同居人の 世話と仕 事の両立 が難しい	自分の死 後の資産 の相続が 心配	老後のこ とを考え ると不安	その他	回答者合計
全体	人数 %	146 5.8%	374 15.0%	368 14.7%	166 6.6%	78 3.1%	46 1.8%	183 7.3%	998 39.9%	59 2.4%	2500 100%
男性	人数 %	64 5.1%	158 12.6%	186 14.9%	50 4.0%	25 2.0%	15 1.2%	80 6.4%	472 37.8%	35 2.8%	1250 100%
女性	人数 %	82 6.6%	216 17.3%	182 14.6%	116 9.3%	53 4.2%	31 2.5%	103 8.2%	526 42.1%	24 1.9%	1250 100%

6.2 新型コロナウイルスの流行による生活への影響

新型コロナウイルスの影響で全体の 23.4%は自分の仕事や収入が減少した。また、マスクやトイレットペーパー等については、買い占めをするより、むしろ買うことができずに困った人が多い。連日の報道、外出制限によって気鬱になった人は 31%であった。

図表 83 新型コロナウイルスの流行による生活への影響（40～64 歳）

	全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%
勤務先の倒産・廃業、整理解雇	60	2.4%	33	2.6%	27	2.2%
自身の仕事や収入が減少した	585	23.4%	296	23.7%	289	23.1%
家族の仕事や収入が減少した	83	3.3%	34	2.7%	49	3.9%
働き方に変化があった（自宅勤務、時差出勤など）	436	17.4%	202	16.2%	234	18.7%
社内のウイルス対策で仕事が増えた	121	4.8%	42	3.4%	79	6.3%
流行により、製品需要が増え、仕事も増えた	43	1.7%	26	2.1%	17	1.4%
収入減により家計が困窮している	147	5.9%	72	5.8%	75	6.0%
マスク、トイレットペーパー等必要なものが買えず困った	807	32.3%	379	30.3%	428	34.2%
マスク、トイレットペーパー等が買えなくなると困るので、必要だと思うものは普段よりも多く購入した	212	8.5%	70	5.6%	142	11.4%
連日の報道や外出制限でストレスがたまったり、気鬱になったりした	774	31.0%	364	29.1%	410	32.8%
その他	292	11.7%	164	13.1%	128	10.2%
回答者	2500	100.0%	1250	100.0%	1250	100.0%